

令和 5 年度
金沢市埋蔵文化財調査年報

令和 6 年 3 月
(2024 年)

金 沢 市
(金沢市埋蔵文化財センター)

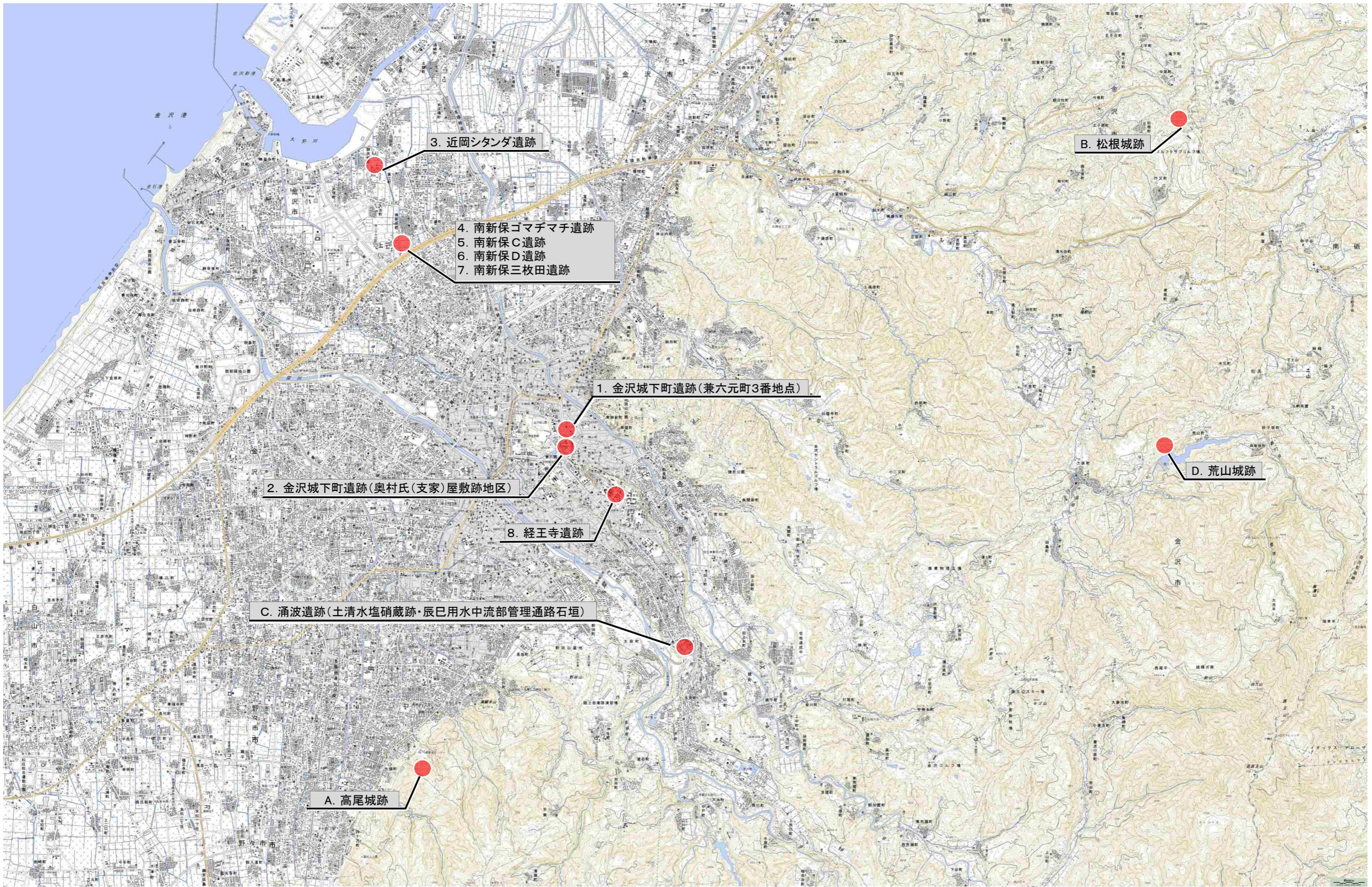
1. 埋蔵文化財発掘調査事業等

(1) 埋蔵文化財発掘調査等一覧

No	調査地	調査面積	調査原因	調査期間	立地	経費(千円)	出土遺物数	時代	主な遺構	主な遺物
緊急発掘調査										
金沢城下町遺跡(兼六元町3番地点)										
1	金沢市 兼六元町地内	580m ² ×2面	有料老人ホーム建設 (民間)	20230501 ～ 20230823	沖積平野	11,616	10箱	江戸	井戸 ピット 土坑 溝	近世陶磁器 近世土器 木製品 金属製品 石製品
金沢城下町遺跡(奥村氏(支家)屋敷跡地区)										
2	金沢市 小将町1丁目地内	650m ² ×2面	プール建設 (公共)	20230619 ～ 20240219	沖積平野	75,633	80箱	江戸	土塀跡 堀跡か	近世陶磁器 近世土器 木製品 石製品 金属製品 古錢
近岡シタンダ遺跡										
3	金沢市 近岡町地内	540m ²	区画整理 (民間)	20230718 ～ 20230905	沖積平野	4,739	12箱	弥生、古墳 奈良、平安	ピット 土坑 溝	弥生土器 土師器 須恵器 墨書き土器 木製品
南新保ゴマヂマチ遺跡【南新保遺跡群】 ※太字は南新保遺跡群4遺跡の合算										
4	金沢市 南新保町地内	5,400m ²	区画整理 (民間)	20230705 ～ 20231226	沖積平野	257,236	30箱	弥生、古墳 奈良、平安	ピット 土坑 溝	弥生土器 土師器 須恵器 木製品
南新保D遺跡【南新保遺跡群】 ※太字は南新保遺跡群4遺跡の合算										
5	金沢市 南新保町地内	1,500m ²	区画整理 (民間)	20230720 ～ 20230915	沖積平野	257,236	25箱	弥生、古墳	掘立柱建物 ピット 土坑 溝	弥生土器 土師器 木製品 石製品
南新保C遺跡【南新保遺跡群】 ※太字は南新保遺跡群4遺跡の合算										
6	金沢市 南新保町地内	2,800m ²	区画整理 (民間)	20230921 ～ 20231218	沖積平野	257,236	30箱	弥生～室町	方形周溝墓 掘立柱建物 平地式建物 ピット 土坑 溝	弥生土器 土師器 須恵器 墨書き土器 木製品 石製品
南新保三枚田遺跡【南新保遺跡群】 ※太字は南新保遺跡群4遺跡の合算										
7	金沢市 南新保町地内	1,000m ²	区画整理 (民間)	20231116 ～ 20240123	沖積平野	257,236	50箱	弥生、古墳	掘立柱建物 ピット 土坑 溝	弥生土器 土師器 木製品 石製品
経王寺遺跡										
8	金沢市 宝町地内	450m ²	大学跡地再開発 (公共)	20231206 ～ 20240222	沖積平野	11,168	12箱	江戸	井戸 ピット 土坑 溝	近世陶磁器・土器 近代陶磁器・瓦 木製品
学術調査										
高尾城跡										
A	金沢市 高尾町地内	570m ²	保存目的 (公共)	20230530 ～ 20230707	山地	2,682	1箱	中世	平坦面 切岸 集石 堀	中世土師器 珠洲 焼 古瀬戸 渡来銭 近世陶器
松根城跡(加越国境城跡群及び道)										
B	金沢市 松根町地内	33m ²	史跡整備 (公共)	20230926 ～ 20231026	丘陵	1,466	1箱	安土桃山	大堀切内 土壘状遺構と堀	近世陶器
涌波遺跡(土清水塩硝藏跡・辰巳用水管理通路石垣)										
C	金沢市 涌波町地内	約40m ² 約25m ²	史跡整備 (公共)	20231101 ～ 20231211	河岸段丘	9,176	1箱	江戸	盛土 溝 磐石 瓦溜まり 集石 石垣	近世磁器 近世瓦
荒山城跡(加越国境城跡群及び道)										
D	金沢市 荒山町地内	61m ²	学術調査 (公共)	20240311 ～ 20240327	丘陵	6,029	1箱	安土桃山	街道 溝 ピット 平坦面	珠洲焼 土師質土 器 土壁 近世磁器

※出土遺物は容量36リットルのコンテナケースに換算した量である

(2)埋蔵文化財発掘調査位置図



1. 金沢城下町遺跡（兼六元町3番地点）

（遺跡番号 県：130415 市：552）

所 在 地：金沢市兼六元町地内

北緯 $36^{\circ} 33' 55''$

東経 $136^{\circ} 39' 54''$

調査面積：1,160 m²

種 別：城下町

主な時代：江戸

担 当：須貝 主事



■遺跡の概要

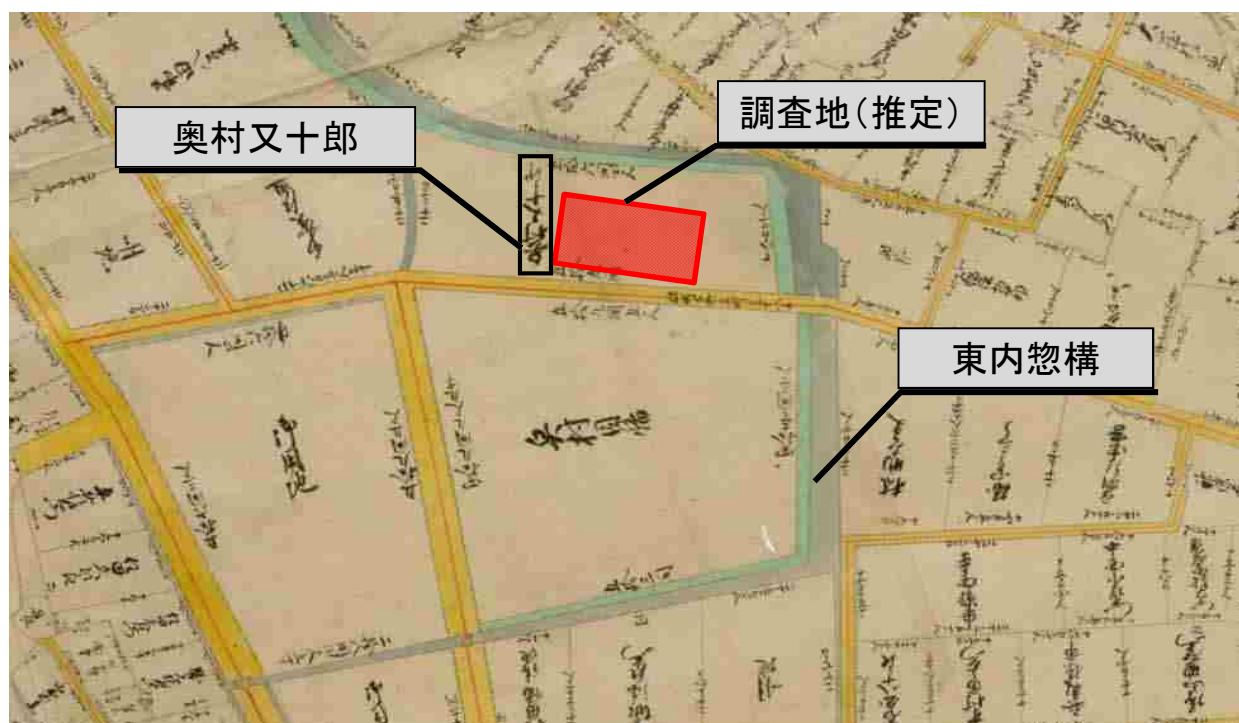
調査地は江戸時代においては、城下町を土居と堀で囲い込んだ防御施設である東内惣構の西側に位置する武家地の一角であり、土坑58基、集石など14基、井戸5基、石列1基、柱穴81基、礎石4基を検出した。

調査区内の基本層序は現地表（標高24m付近）から約0.8mまでが現代の整地面で、その下約0.6mの厚さで江戸時代の遺構面が展開し、標高23m～22.3m付近で地山となっていた。

調査区の西側からは焼瓦がまとまって廃棄されている状況を確認した。この近くからは調査区外へ続く石列を検出している。これは敷地境など何らかの区画を形成していたと考えられる。また、石を敷き詰めた集石遺構が見つかっているが、これは建物などの基礎と考えられる。南側からは直径約1～2m、深さが約1mの大型の土坑が複数重なり合うように検出された。土坑からは遺物が大量に見つかったことから、不用品を廃棄したいわゆる「ゴミ穴」であったと推測される。調査区の北東には柱穴が集中して確認できた。密集しているため建物の形状や規模の特定は困難だが、柱穴の中には直径約50cmの穴が東西方向に約1.1m間隔で7つ並んで検出されたものもあり、一辺8.2m以上の建物があったことが推測できる。また北西端の方からも東西方向に1.8m間隔で3つ並ぶ礎石を検出しているが、こちらも一つの建物の痕跡と推測できる。

江戸時代の城下町絵図である寛文七年金沢図（1667年）・延宝金沢図（1673～1681）によると、調査区は武家地で、奥村又十郎の屋敷地に該当する。当該調査区の国道159号を挟んで南側には、1万石以上の禄高を与えられて家老よりも上位となる年寄役を務め、政務を統括した家柄である「加賀八家」の一つ、奥村家（支家）の屋敷がある。又十郎は奥村家（支家）の祖、奥村易英の次男である易定のことと、禄高1700石を与えられ、藩政に深く関わることもあった身分である人持組に列している。

本調査により、武家地での空間構成の一端をうかがうことができた。今後の屋内整理の実施によって遺物の年代が確定し、それに伴って遺構の変遷が判明することで、当時の武家の生活を解明する一助となることが期待される。



石川県立図書館蔵 『寛文七年金沢図』における調査地 (推定)



全景（北東から）



全景（南西から）



瓦集積遺構（北から）



石列遺構（東から）



集石遺構（東から）



土坑断面（南から）



井戸（南から）



出土陶器（西から）

2. 金沢城下町遺跡（奥村氏（支家）屋敷跡地区）

（遺跡番号 県：130403 市：593）

所 在 地：金沢市小将町地内

北緯 $36^{\circ} 33' 52''$

東経 $136^{\circ} 39' 52''$

調査面積： $650 \text{ m}^2 \times 2$ 面

種 別：城下町

主な時代：江戸

担 当：新出 主査



■遺跡の概要

金沢城下町遺跡（奥村氏（支家）屋敷跡地区）は、金沢市中心部の小将町にあり、犀川と浅野川により形成された沖積地のほぼ中央に位置する。調査区周辺は金沢城の南東側に隣接し、藩政期には奥村氏（支家）の屋敷が建っていた。周囲は金沢城に近いこともあり、藩の施設や武家屋敷が建ち並ぶ地域であった。奥村氏（支家）は加賀八家の一つで、石高は多い時は1万7,450石で少ない時でも6千石を有した。奥村永福の二子易英に始まる（1976 北国新聞社『加能郷土辞彙』）。奥村家の屋敷地は当初は金沢城の新丸にあったが、寛永の大火をきっかけに内惣構内の町人地を移動して置かれた（1998 金沢市『金沢市史 資料編17 建築・建設』）。調査区は東内惣構の内側で起点にあたる場所に位置する。

発掘調査は兼六小学校プール建設工事に先立ち実施した。調査期間は令和5年6月19日から令和6年2月19日まで行い、調査面積は 650 m^2 を2層確認した。調査地は現在の旧小将町中学校のグラウンド部分であるが、明治時代には小将町高等小学校の校舎が建っており、現地表面から1.4m程度までは、旧校舎の基礎で遺構が破壊されており、江戸時代後半の遺構面はほぼ残っていなかった。

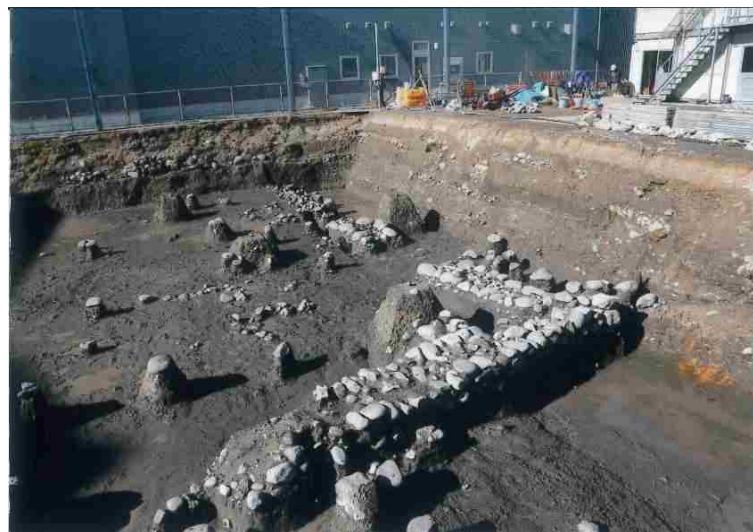
上層は江戸時代前期の土塀の基礎が残存している層で、屋敷内の小道のような敷石も確認できた。また、東内惣構であろうか、調査区と旧小将町中学校の体育館の間に深さ1.23m程度の溝の起点の一部を確認できた。建物に近接していたためこれ以上は掘り進むことができなかった。この他、建物の礎石と思われる石、土坑などを検出した。

下層は地山面で、柱穴、井戸跡が5基、ゴミ穴1基、土坑2基を確認した。井戸の湧水が激しかった。出土遺物は上層と同じく江戸時代前期のものが多い。このうち、SE11の井戸枠は長さ約1800mm、幅約150mm、厚さ約50mm程度の板を21枚組んで作られたもので、非常に立派なつくりの桶であった。

下層の整地層から、木製の人形や鉄砲の玉がめり込んだ木製の桶が出土した。桶の底板を転用したものと考えられる。鉄砲の跡は数カ所あり一カ所は貫通していた。鉄砲の玉がめり込んだ形で出土するのは全国的に見ても非常に珍しいのではないかと思われる。



石川県立図書館蔵 『寛文七年金沢図』における調査地 (推定)



土塀の基礎



井戸 (SE11)



鉄砲玉がめり込んだ桶の底板（的か）

3. 近岡シタンダ遺跡

(遺跡番号 新発見のためなし)

所在地：金沢市近岡町地内

北緯 $36^{\circ} 36' 32''$

東経 $136^{\circ} 37' 43''$

調査面積： 540 m^2

種別：集落跡

主な時代：弥生～奈良・平安

担当：鏡 主事



■ 遺跡の概要

近岡シタンダ遺跡は、金沢市近岡町地内において金沢市近岡町地区画整理組合が施工する土地区画整理事業に先立ち発掘調査が実施された。近岡シタンダ遺跡は、金沢平野の北西部、大野川下流南岸の海拔1m前後を測る低地に位置している。当遺跡が立地する付近一帯は大野川、浅野川、犀川によって形成された沖積平野であり、かつて所々に地下水が自噴する地域で古くから集落形成に適しており、市内でも有数の遺跡密集地帯となっている。

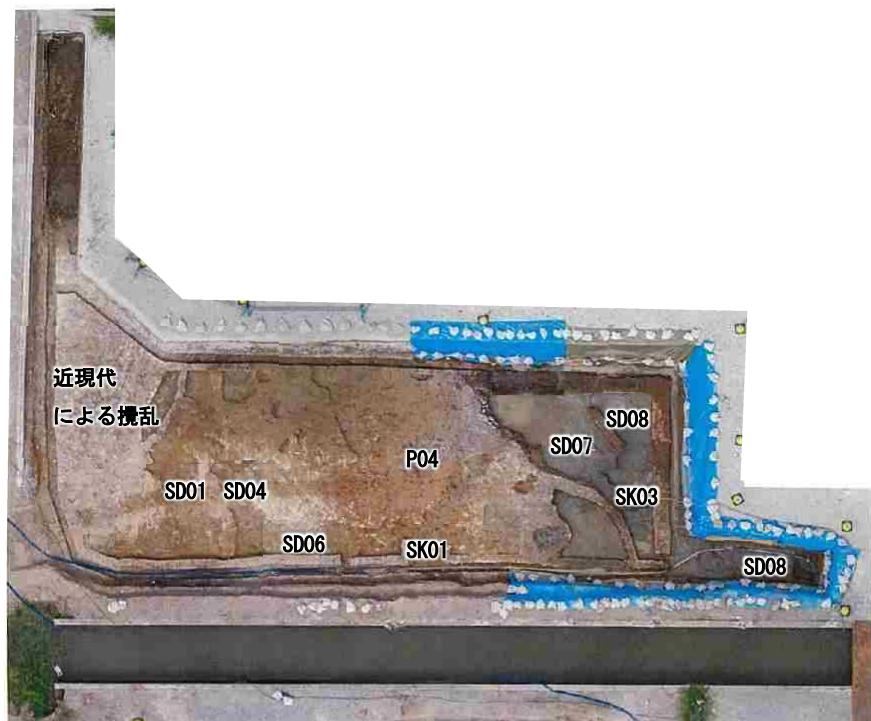
近岡シタンダ遺跡の発掘調査では、弥生時代～古墳時代の溝、土坑、奈良・平安時代の溝、土坑、小穴などが見つかっている。建物跡などは見つかっていないが、1区東側の平安時代の川跡からは生活の様子を伺えるような遺物が多数出土した。出土遺物は、土器、須恵器、石製品のほか、木製品では曲げ物の円板や皿が出土した。特に墨書き土器は「真」「前」「依」「#」など多数出土しており、転用硯も出土している。

1区東側では古代の溝を2条検出している。SD07は1区東側で北西から南東方向へと伸びる溝で、9世紀～10世紀頃の川跡と考えられる。須恵器の他、木製品では曲物の円板が出土した。このSD07の東側で、より時代の古いSD08を検出した。8世紀後半～9世紀前半頃の川跡と考えられ、墨書き土器、木製皿など多くの遺物が出土した。弥生時代終末期～古墳時代前期の遺物も多数出土するが、何らかの理由により混入したものと考えられる。

2区では、溝、土坑、ピットを検出した。1区の北側で検出した大型の土坑SD(SK)16は、遺物の出土は少ないが、最下層より須恵器片が出土しており、奈良・平安時代の遺構であると考えられる。2区の中央で北西方向から南東方向に複数の溝が伸びるのを検出した。SD15は砂が堆積し、弥生時代終末期～古墳時代前期の土器の細片が多く出土した。SD14からは8世紀後半～9世紀前半の須恵器が出土した。SD12はSD14・SD15より時期は新しいが、遺物は少なく、土錐が出土した。

今回の調査では、建物跡など生活に密着するような遺構は検出されなかった。集落の中心部は調査区東側もしくは隣接する遺跡に存在し、今回の調査区は集落の縁辺部にあたるものと考えられる。

当遺跡から約150m北側に位置する近岡ナカシマ遺跡では、平安時代の桁行7間×梁行2間の大型掘立柱建物、隅柱縦板組の井戸が見つかっている。また、約700m西側には古代の港湾官衙遺跡と考えられている戸水C遺跡、周辺には大友E遺跡などが位置し、役所のような要所が集中するエリアといえる。当遺跡の川跡からは「依」「#」といった戸水C遺跡や大友E遺跡などの拠点集落を頂点として拡散する祭祀関係墨書きが出土しており、付近に要所となる集落が存在することを示唆している。縁辺部ではあるが、戸水C遺跡を中心とする臨海地域の集落群の一端が明らかになったといえる。



近岡シタンダ遺跡 遺構全体図



1区 奈良・平安時代の川跡（SD07・SD08）



1区 川跡（SD08）須恵器出土状況



1区 川跡（SD08）木製皿出土状況



2区 溝（SD12・SD14・SD15）土層断面



2区 土坑（SD(SK)16）土層断面



2区 溝（SD20）土層断面



1区 遺構完掘



2区 遺構完掘

みなみしんぼ
いせき
みなみしんぼいせきぐん

4. 南新保ゴマヂマチ遺跡【南新保遺跡群】

(遺跡番号 新発見のため番号なし)

所 在 地：金沢市南新保町地内

北緯 $36^{\circ} 35' 58''$

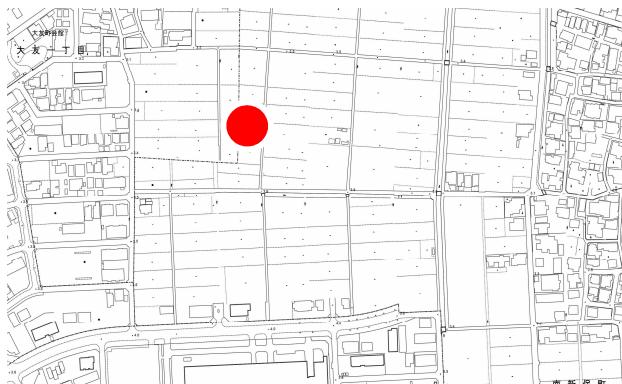
東経 $136^{\circ} 37' 47''$

調査面積 : 5,400 m²

種 別：集落跡

主な時代：弥生～室町時代

担 当：谷口 主査、鏡 主事



■ 南新保遺跡群の概要

南新保遺跡群は、金沢市南新保町地内において金沢市南新保土地区画整理組合が施工する金沢市南新保土地区画整理事業地内で発掘調査を行っている遺跡の総称で、南新保C遺跡、同D遺跡、同三枚田遺跡、同ゴマヂマチ遺跡が含まれる。発掘調査は令和2年度から同8年度（予定）まで計画されており、4年目となる同5年度は南新保ゴマヂマチ遺跡、同C遺跡、同D遺跡、同三枚田遺跡の4遺跡の調査を行った。

南新保遺跡群は金沢平野北部、犀川と浅野川に挟まれた金沢港まで約2kmの臨海部に位置する。かつては沼が広がり、小川が網目状に流れるような低湿地の中に点在する微高地上に集落等が営まれる立地環境であったと考えられる。周辺には上記4遺跡のほか、南新保A遺跡、同B遺跡、同E遺跡、及び弥生時代の大集落として知られる西念・南新保遺跡などが所在する。

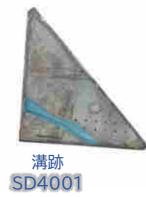
■ 南新保ゴマヂマチ遺跡発掘調査の概要

南新保ゴマヂマチ遺跡の発掘調査は令和3年度の区画整理事業に伴う第1次調査に続く第2次調査であり、別図に示した4区及び5区にて実施した。現地表面から0.2～0.4m程度の深さで遺構検出面となり、標高2.5m前後を測る。調査区全体に天地返し（耕作土の表層と深層を入れ替える農作業）による搅乱が見られる。

4区は平面三角形の小規模な調査区で、明確な遺構は弥生時代と中世の溝をそれぞれ1条検出したのみで、遺物量もごく少量である。

5区は縦に長いコ字状の調査区である。中央に近現代の用水跡が流れしており、前述の天地返しの影響も含めて検出遺構は少なく、そのほとんどが溝状遺構である。出土遺物も少なく、さらに遺構に伴う遺物も限定的である。出土遺物は弥生時代後期から古墳時代初頭にかけてのものが大部分を占めており、これ以外には奈良・平安時代の須恵器がわずかに出土している。溝状遺構のうち調査区北西で検出したSD5007は南から北へ直線的に延びた後に約90°折れ曲がって西方へ延びる。幅は約7.8mを測り、断面形は底面が平坦な皿形を呈する。その平面形から大規模な区画溝や周溝などが想定されるが、遺物は須恵器片が数点出土するのみで遺構の規模に比して遺物数が極めて少なく、現段階で遺構の時期を比定するのは早計であろう。令和6年度に発掘調査を予定している隣接地の調査成果を待ちたい。SD5001は調査区北西を南西～北東方向に流れるが、溝というより鞍部状の落ち込みに近い。底面から比較的まとまった量の弥生土器と木製品が出土している。その他の溝状遺構は南北方向に流れるものが大部分を占め、いずれも遺物の出土はほとんど見られない。

【別図】 調査区位置図



4区 調査区全景



4区 SD4001断面（西から）



5区 SD5007 断面（東から）



5区 調査区全景



5区 SD5026 断面（北から）



5区 SK5002 断面（東から）

5. 南新保D遺跡【南新保遺跡群】

（遺跡番号 県：1288 市：148）

所 在 地：金沢市南新保町地内
北緯 $36^{\circ} 35' 46''$
東経 $136^{\circ} 38' 10''$

調査面積：1,500 m²

種 別：集落跡

主な時代：弥生、古墳時代

担 当：谷口 主査、鏡 主事



■ 遺跡の概要

本遺跡の発掘調査は金沢市南新保土地区画整理事業に伴うものである（南新保ゴマヂマチ遺跡の項を参照）。過去においては、同区画整理事業地内において令和2年度及び同4年度に発掘調査が行われたほか、国道8号線付近において県教育委員会による第1次（昭和49年）、市教育委員会による第2次（昭和54年）、第3次（昭和56年）、第4次（昭和62年）、第5次（平成元年）の発掘調査履歴がある。

令和5年度の発掘調査区は同4年度調査区の南に隣接し、平面形は逆L字を呈する。調査区の北部中央には過年度にも検出された近代以降の自然流路と見られる最大幅7mの河川跡があり、その東側は近代以降の排水溝跡や搅乱の密度が濃くなる傾向にある。このため河川跡の東側には遺構や遺物の分布がほとんど見られず、遺構と遺物の検出は河川跡の西側にほぼ限定される状況である。また、河川跡の西側でも建物基礎跡などの搅乱が各所に点在する。遺構は掘立柱建物跡2棟のほか、溝跡、土坑、ピットなどが検出されたが全体的には遺構密度は希薄かつ遺構の底面のみが残存するような状況であり、過年度調査と同様に過去の耕地整理等により遺跡全体が大きな削平を受けた状態を示すものであろう。

溝跡 SD3001 は過年度に検出した SD01 の延長である。幅約1.5m、深さ0.2mを測り、調査区を南南東から北北西にほぼ直線的に縦断する。過去調査での検出状況と同様、底面から弥生時代終末から古墳時代前期にかけての遺物が大量に出土するがその大部分は小片・細片である。SD3002 は過年度に検出した SD02 の延長であり、幅約1.0m、深さ約0.2mを測る。流路は SD3001 とほぼ並行ながらやや緩やかに蛇行しつつ調査区を縦断し、遺物の出土状況・時代とも SD3001 と酷似する。両者とも調査区南半（すなわち上流側）では遺物量が減少する傾向にあるため、当時の生活拠点は遺跡の北側に存在していたと見られる。

掘立柱建物跡 SB3001 は梁行1間×桁行1間の検出で調査区東側に延伸するものと見られる。柱穴から弥生時代の土器片が出土しているがその数は少ない。同じく SB3002 は梁行1間×桁行4間の検出で、一部の柱穴からは礎板が出土している。時代を特定できる遺物の出土は見られないが弥生時代の遺構と考えている。

土坑 SK3003 は径0.8m・深さ約0.9mの平面円形、断面形は逆台形を呈し、SD3001 と SD3002 に挟まれて位置する。底面から弥生時代終末期の完形の壺が横位で出土している。

【別図】調査区位置図



掘立柱建物跡(SB3001)



南新保D遺跡 調査区全景



掘立柱建物跡(SB3002)



土坑(SK3003)



SD3001(北から)



SD3002(北から)

6. 南新保C遺跡【南新保遺跡群】

(遺跡番号 県: 1290 市: 149)

所 在 地: 金沢市南新保町地内

北緯 $36^{\circ} 35' 51''$

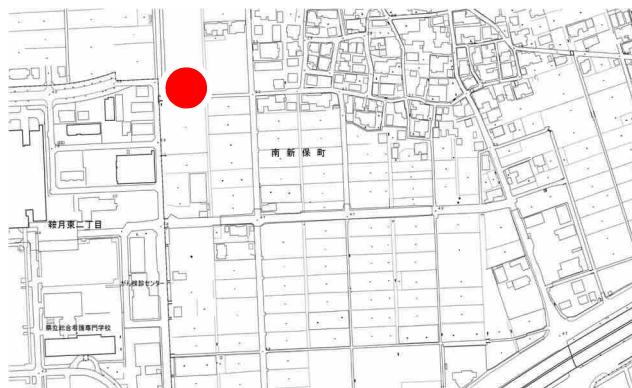
東経 $136^{\circ} 37' 56''$

調査面積: 2,800 m²

種 別: 集落跡

主な時代: 弥生～室町時代

担 当: 谷口 明伸、鏡 百恵



■ 遺跡の概要

本遺跡の発掘調査は金沢市南新保土地区画整理事業に伴うものである（南新保ゴマヂマチ遺跡の項を参照）。過去においては、平成8・9年度に石川県埋蔵文化財センターによる発掘調査が行われたほか、同区画整理事業に伴う発掘調査が令和2～4年度に行われており、弥生時代から室町時代までの遺構と遺物が出土している。特に令和3年度の調査では平安時代の船着場または船関連施設の跡と思われる遺構から船材と思われる長大な木材が出土している。

令和5年度の発掘調査は別図の箇所で実施し、弥生時代後期～古墳時代前期及び奈良時代～平安時代の遺構と遺物が検出された。調査区の北側は遺構密度が高く遺構の遺存状況も良好であるが、南半は近代以降の搅乱や河道跡により遺構・遺物ともにその検出数は少ない。

【弥生時代後期～古墳時代前期の遺構と遺物】

当該期の遺構には方形周溝墓1基、平地式建物跡1棟、土坑、ピットを検出している。方形周溝墓は溝状遺構4条からなり、これが周溝となって四隅を掘り残す平面形となる。墳丘及び主体部は削平されて残存しない。周溝からは弥生時代後期から終末期の遺物が出土するがその数は多くない。方形周溝墓の南方約5mで検出した平地式建物は規模や平面形が不揃いな細長い土坑が連続して周溝となり、その直径は約12mと推定され、その中に1間×1間の柱穴が配置される。この建物跡内で検出された土坑SK12041は長軸1.34m・短軸0.54m・深さ0.1mを測り、覆土から弥生時代後期から古墳時代前期の土器片とともに翡翠製勾玉2点とガラス小玉2点が出土している。当該期における本遺跡は過去の調査成果から遺跡の北部を居住域、南部を墓域とする土地利用がなされていたと考えられているが、本年度調査区はその境界にあたるものと考えることができる。

【奈良時代～平安時代の遺構と遺物】

当該期の遺構には水路跡、土坑、溝跡、ピットがある。水路跡SD12005は最大幅約9m、深さ0.8mを測り、調査区南端から北上して西に90°屈曲した後に調査区外へ延びる。令和3年度調査で船材と船関連施設跡を検出した水路跡(SD715)に繋がるものと推測される。屈曲部は新旧2時期の層位が確認できるため、水路幅を拡幅した可能性がある。ここからは大量の須恵器・土師器が出土しており、現時点で約20点の墨書き土器が含まれることを確認している。墨書き土器の中には一筆書きで螺旋を描くように花弁状の文様を描くもの、内面上半を墨で塗りつぶすもの、などの特徴的なものが含まれる。

その他、梁行1間×桁行3間の掘立柱建物2棟を検出しているが、柱穴からの遺物の出土がごく少量かつ細片のため、現段階では時期の特定が困難である。

【別図】調査区位置図





方形周溝墓



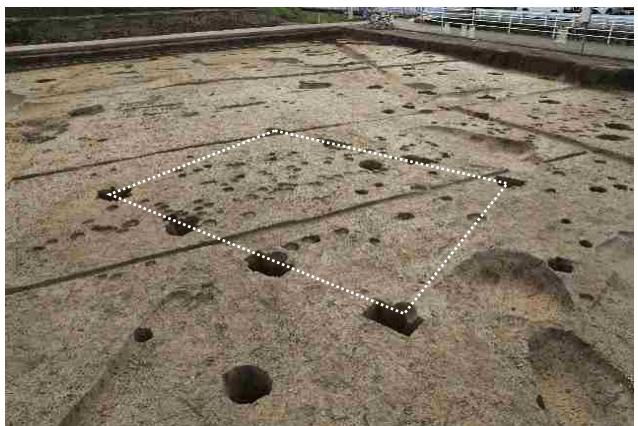
平地式建物跡



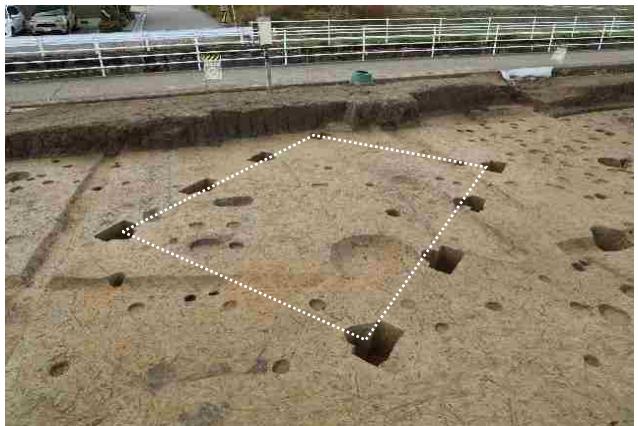
土坑SK12041



翡翠製勾玉出土状況(SK12041)



掘立柱建物跡



掘立柱建物跡



水路跡の屈曲部



花弁状の文様を描く墨書土器
(水路跡(新)から出土)

7. 南新保三枚田遺跡【南新保遺跡群】

(遺跡番号 県: 1287 市: 146)

所 在 地: 金沢市南新保町地内

北緯 $36^{\circ} 35' 41''$

東経 $136^{\circ} 37' 59''$

調査面積: 1,000 m²

種 別: 集落跡

主な時代: 弥生～古墳時代

担 当: 谷口 主査、鏡 主事



■ 遺跡の概要

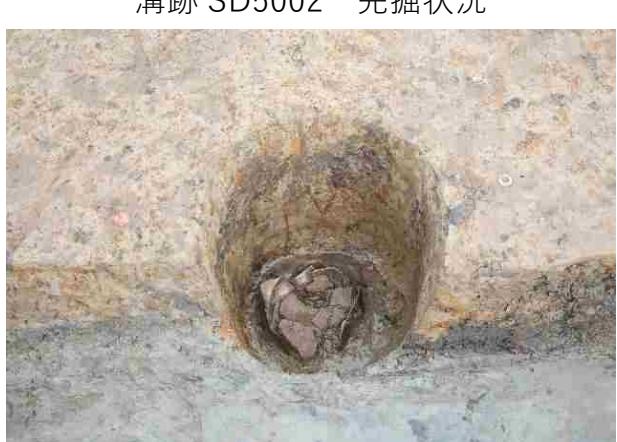
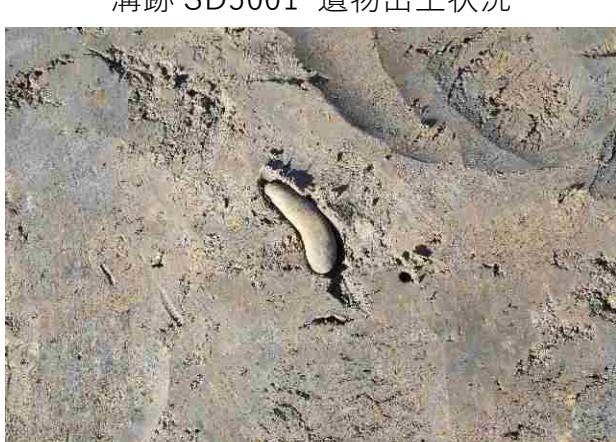
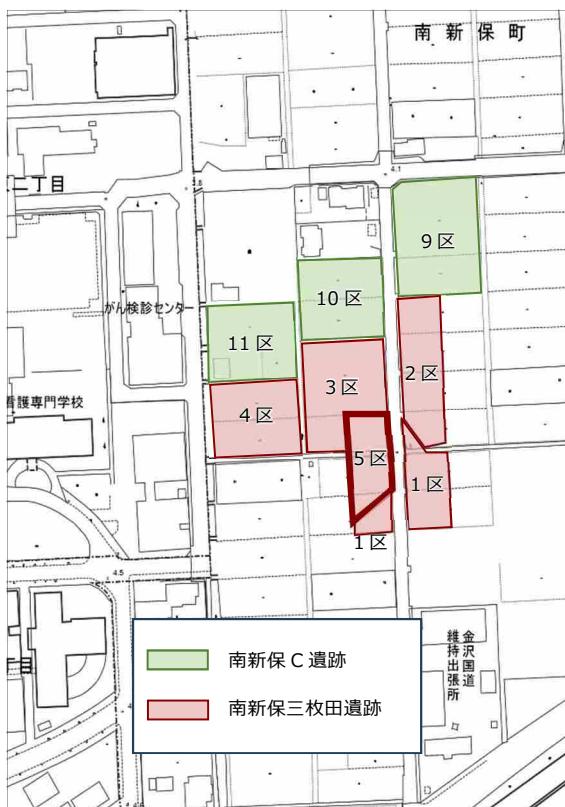
本遺跡の発掘調査は金沢市南新保土地区画整理事業に伴うものである（南新保ゴマヂマチ遺跡の項を参照）。過去においては、同区画整理事業地内において令和2年度・令和4年度に発掘調査が行われたほか、昭和56・57年度に道路改良工事に伴う発掘調査が金沢市教育委員会により行われている。

令和5年度の発掘調査は令和2年度調査区（1区）と同4年度調査区（2～4区）に挟まれる5区（別図参照）で実施し、弥生時代中期末から古墳時代前期の遺構と遺物を確認した。遺構には掘立柱建物跡1棟、土坑11基、溝9条、ピット204基がある。調査区は令和4年度に実施した南新保三枚田遺跡3区に南接しており、3区で検出した溝跡SD3001・SD3020の延長が本調査区内を北西-南東方向に延びる（SD5002・SD5001）のを確認しほか、調査区中央を流れる大型の溝SD5001を境に東側ではピットを主体とした多数の遺構が検出された。3区ではSD3020の東側で方形周溝墓や掘立柱建物跡が複数検出されたが、本調査区においてはSD3020の延長であるSD5001の東側に明確な建物跡や墳墓跡を検出するまでには至っていない。一方でその西側では遺物を包含する沼地状の落ち込みSX5001が検出されている。

SD3020の延長である大型溝SD5001は幅約3.6～3.8m、深さ約0.92～1.06mを測り、断面は椀型で覆土のうち上層には植物遺体が多く含まれ、下層にはヤマトシジミを中心とした貝片を含む層が確認できる。遺物は弥生時代終末から古墳時代前期にかけての土器、木製品が多量に出土している。調査区西側を蛇行して流れる溝SD5002（3区SD3001の延長）は幅約0.9～1.7m、深さ約0.62mを測り、断面がしっかりと逆台形状を呈するのが特徴である。覆土からは弥生時代中期末の土器片が出土した。

SD5002とSD5001との間のエリアでは、堀立柱建物（SB5001）を1基検出した。8基のピットで構成されており、梁・桁行は1間×3間である。柱穴によっては柱根の抜き取り痕が確認できるものがあり、P5155からは根石が出土した。覆土中より弥生時代～古墳時代の土器片が出土しているが、細片であるため、詳細な時期の特定は今後検討が必要である。調査区南側で検出したSD5008は、南西から北東方向に延びる深さ0.15mほどの浅い溝である。弥生時代中期末～終末期の土器片が出土とともに、打製石斧、勾玉未成品が出土した。

本調査区北側の2区・3区・4区では、方形周溝墓や堀立柱建物、平地式建物が多数検出されたが、本調査区では堀立柱建物1棟のみで、遺構密度が低く、遺物量も少ない。本調査区及び1区が集落の南限と考えられる。



8. 経王寺遺跡

(遺跡番号 県:132000 市:554)

所 在 地：金沢市宝町地内

北緯 $36^{\circ} 33' 23''$

東経 $136^{\circ} 40' 33''$

調査面積：450 m²

種 別：城下町

主な時代：江戸

担 当：須貝 主事



■遺跡の概要

調査地は金沢大学付属病院の北東、国道 27 号線の西側に位置する駐車場跡地で、金沢美術工芸大学跡地再開発にかかり調査を行った。藩政期においては金沢城下町の南端にあたり、武家地の一角で、近代においては金沢監獄の倉庫等の跡地に該当する。

北側の A 区、南側の B 区に分けて調査を行い、A 区では土坑など 22 基、溝 4 条、小穴 2 基の計 28 基の遺構を検出した。また、B 区では土坑など 31 基、溝 6 条、小穴 25 基、井戸 2 基、石列 1 基の計 65 基の遺構を検出した。

A 区は現地表（標高 60.18m 付近）から約 80 cm までが現代の整地面で、その下約 10 cm の厚さで江戸時代の遺構面が展開し、標高 59.18m～58.90m 付近で地山となっていた。北端は原地形の傾斜地を土盛して平坦面を形成していることが確認できた。このすぐ南からは、近世の陶磁器が大量に含まれた土坑が 2 基検出されており、不用品を廃棄したゴミ穴と推定される。東側が調査区外へ延びる 3 つの土坑も、近世陶磁器を多く含むことから、廃棄土坑と考えられる。調査地は江戸時代の区画においては敷地の裏側に該当することから、裏手の空間地に掘られたものとみられる。近代の遺構としてはレンガやガラスを多量に含んだ大型の土坑が検出された。

B 区は現地表（標高 60.16m 付近）から約 50 cm までが現代の整地面で、その下約 10 cm の厚さで江戸時代の遺構面が展開し、標高 59.48m～59.77m 付近で地山となっていた。南西端の落込みは、上層が近代攪乱により大きく破壊されていたが、最下層からは近世陶磁器・土師器が大量に出土した。南西端の土坑の覆土には近世陶磁器の他にシジミやハマグリ等の貝類が大量に含まれていることから廃棄土坑とみられる。井戸は 2 基確認できたが、いずれも石組や木枠は見つかっていない。また、柱穴とみられる小穴を複数確認しているが、建物の規模の特定には至っていない。近代の遺構としては、レンガが廃棄された大型土坑や、約 0.8m 四方のレンガを組んだ排水溝とみられる構造物を 2 基検出した。他にも近代瓦の破片を直径約 0.6m の円形に組んだ構造物を確認し、用途としては花壇が想定される。

調査地は近代以降の整地によって上部構造が破壊され、最下層のみ現存する状況であったが、今後の調査資料の検討により、藩政期の金沢における武家屋敷地の構造が明らかになることが期待される。



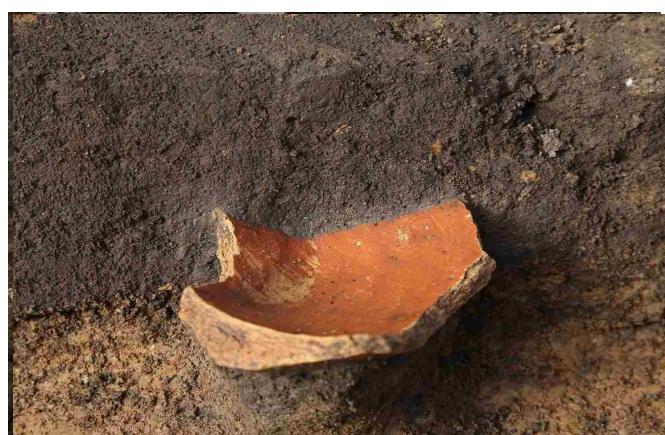
A区全景（南西から）



A区土坑（西から）



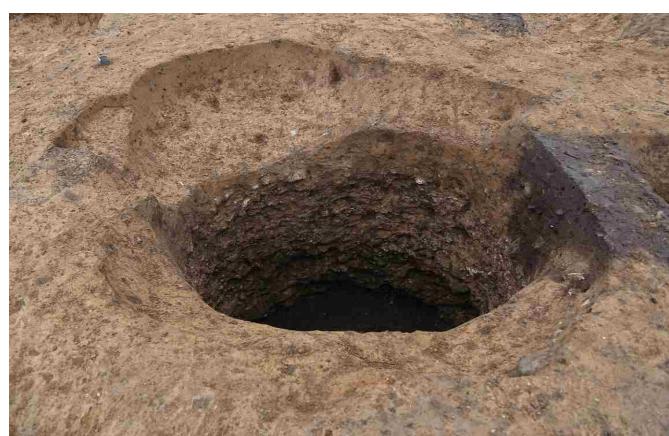
A区土坑（北から）



A区出土遺物（北から）



B区全景（北から）



B区井戸（北から）



B区円形瓦遺構（北から）



B区出土遺物（北から）

A. 高尾城跡 (コジョウ地区)

(遺跡番号 県: 106400 市: 308)

所在地: 金沢市高尾町地内

北緯 $36^{\circ} 51' 33''$

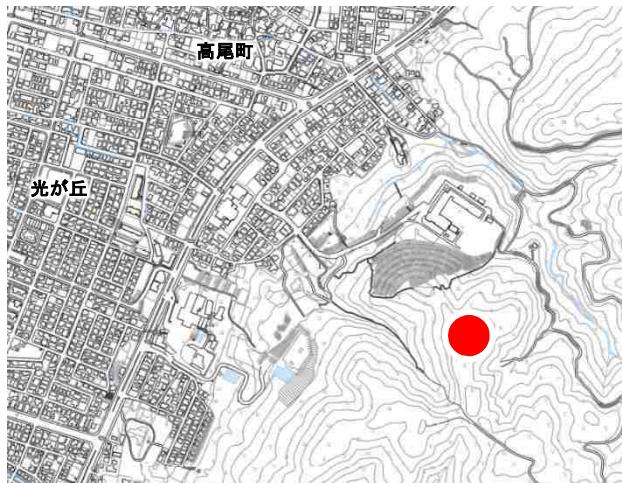
東経 $136^{\circ} 63' 77''$

調査面積: 約 50 m^2

種別: 城館跡・散布地

主な時代: 中世

担当: 庄田 主査



■遺跡の概要

高尾城は富樫丘陵先端部一帯に築かれた山城である。浄土真宗門徒による長享2年（1488）の一一向一揆（長享の一揆）の際に加賀国守護・富樫政親がこの城に立てこもり、一揆軍に攻め落とされたことで、加賀が「百姓ノ持チタル国ノヤ（ヨ）ウ」となる歴史的事件の発端となった地として知られる。

石川県遺跡地図に掲載される高尾城跡の範囲は周辺一帯の広大な山域にわたるが、防御能力をもたらせた明確な城郭遺構が認められるのは、「ジョウヤマ」と「コジョウ」と呼ばれる地区にある。「ジョウヤマ」地区にあったとされる城の主要部分は過去の土取りにより大部分が失われているが、「ジョウヤマ」の背後にあって細尾根で結ばれている「コジョウ」地区には現在も城郭遺構が多数残されている。

本市では、「コジョウ」地区において、令和4年度には航空レーザー測量による赤色立体図を作成して残存遺構の分布状況を確認し、令和5年度には国庫補助金をえて主郭内2箇所および堀切2箇所についての発掘調査を実施した。

1. 主郭（調査区1・2）

主郭は標高約186mの小高い丘陵を頂点とするコジョウ地区の最高所で、頂上付近には約 500 m^2 の平坦面（主郭上段）が広がっている。主郭の北東側および南東側では、一段下がった位置で標高180m付近まで緩やかな斜面（主郭下段）が続く。

主郭北西部の上段から下段にかけて掘削した調査区1では、上段の地表下約20cmで中国製の渡来銭「熙寧元寶」（初鑄年1068年）が出土した。北宋時代の中国の貨幣は貿易により輸入され、渡来銭として国内で広く流通していたと考えられる。

上段では土坑や柱穴等の明確な遺構が確認されなかつたため、やや地質が硬化する地表下約40cmまで掘り下げたところ、礎石のような上面が平坦な石が検出された。そのため周囲を拡張して掘削したが、この石に続く礎石列は確認されなかつた。

主郭上段から主郭下段にかけての現在の地形は、比高差約3mの緩斜面となっている。発掘調査の結果、主郭上段と主郭下段の間が比高差約2.2m、最大斜度約65度の急な斜面（切岸）となっていること、切岸下の下段は高低差約50cmの小規模な二段の平坦面で構成されていることが判明した。

下段平坦面のくぼ地には人頭大の川原石が多数集積されていた。集石の周囲から出土した土師器皿や吉瀬戸平碗の年代から、14世紀末～15世紀前半代にこの集石が置かれたくぼ地が掘られたことがわかつた。また、集石より上層では14世紀末～15世紀後半代の珠洲焼すり鉢や15世紀末～16世紀

代の土師器皿細片がみつかっている。

主郭北東部では主郭下段緩斜面に調査区2を設定した。発掘の結果、この緩斜面の裾部はやや急な自然地形の斜面に盛土をおこない平坦面を造成していることが明らかになった。

2. 東外堀切（調査区3）

高尾城跡東面を流れる城谷川から「コジョウ」地区の主郭へ登る稜線を断ち切るように掘られた南北方向の2本の堀切（東外堀切・東内堀切）のうち、東外堀切は幅約15m、長さ約50m、深さ約8mを測り、「コジョウ」地区で最も大規模な堀切である。

東外堀切の底を掘削したところ、堀底は平坦で堀底幅は約2.7mとなっており、現在まで堀底から1.8mの土砂が堆積していることが判明した。堀切の外側では固い砂層を約50度の傾斜で削り出した切岸の斜面となっていることを確認した。

3. 南堀切（調査区4）

「コジョウ」地区の南（搦手）側稜線を断ち切るために掘られた東西方向の堀切で、幅約20m、長さ約35m、深さ約6mを測る。

南堀切は、一部が南北方向に造成された造林作業道により約1mの厚さの盛土で埋められているが、発掘調査により堀切遺構は比較的良好に残っていることを確認した。堀底の断面形状は丸く、調査区内では堀幅約5.5mまでを確認した。造林作業道で埋められる前の旧表土から堀の最深部までは約1.2mの土砂が堆積している。なお、堀外側斜面の傾斜は最大約50度、堀内側斜面の傾斜は最大約30度となっている。

調査成果

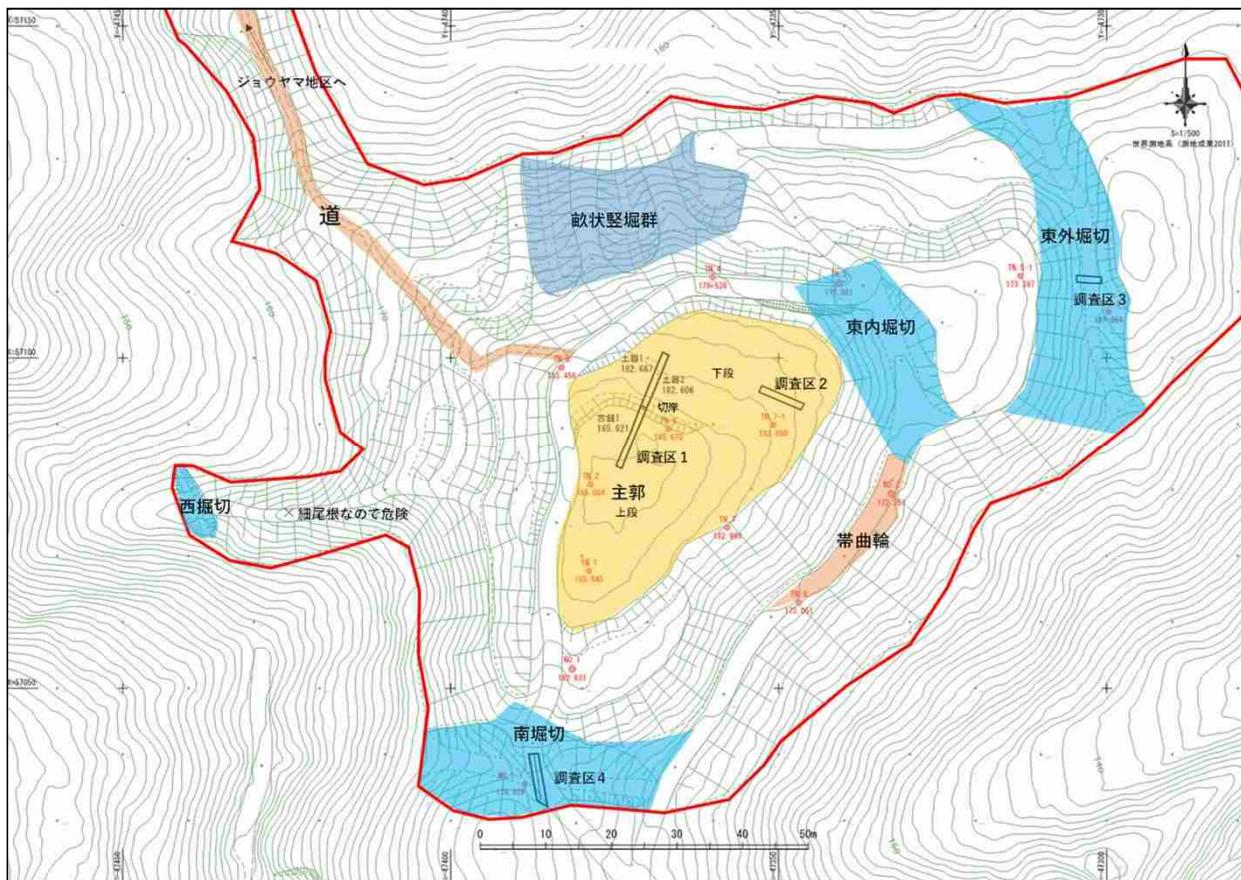
高尾城「コジョウ」地区には、主郭、曲輪（平坦地）、切岸、大規模な堀切等が良好に残されており、発掘調査により堀底が現地表面より1m以上深い位置で確認されたことで、従来の想定より大規模な造成が行われていたことを確認できた。これにより、「コジョウ」地区の遺構が城として高い防御力を有しており、中世城郭の実態を知ることができる貴重な遺跡であることが判明した。

主郭からみつかった出土品により、「コジョウ」地区の遺構の築造が富樫氏の時代の14世紀後半代には始まっていたことを確認できた。また、少数の細片のため詳細は不明だが、15世紀後半～16世紀代と考えられる遺物も出土したことから、高尾城が落城した長享の一揆の際にもここが城として利用していた可能性が高まった。

高尾城跡 位置図



調査位置図



主郭上段(調査区1)



主郭上段の平坦面

主郭下段(調査区1)



主郭下段は二段の平坦面で構成される

東外堀切(調査区3)



東外堀切 現地表下1.8mほど埋まる

南堀切(調査区4)



南堀切 旧地表下1.2mほど埋まる



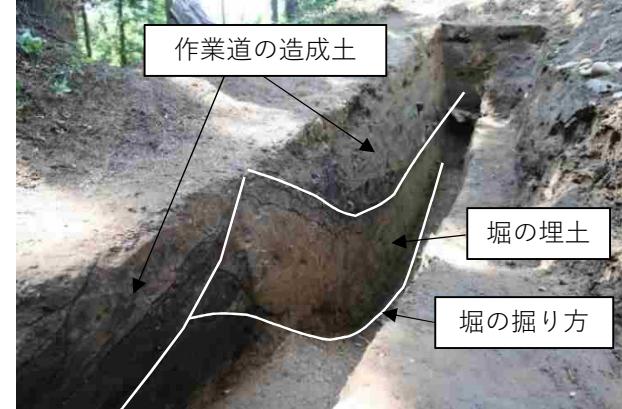
主郭 (調査区1) 出土遺物



下段のくぼ地に人頭大の川原石を集積



東外堀切 埋土はほぼ均質な山砂



南堀切 土層堆積状況

まつねじょうあと かえつくにざかいしろあとぐんおよびみち B. 松根城跡【加越国境城跡群及び道】

(遺跡番号 県:01395 市:111)

所在地: 金沢市松根町地内

北緯 $36^{\circ} 36' 52''$

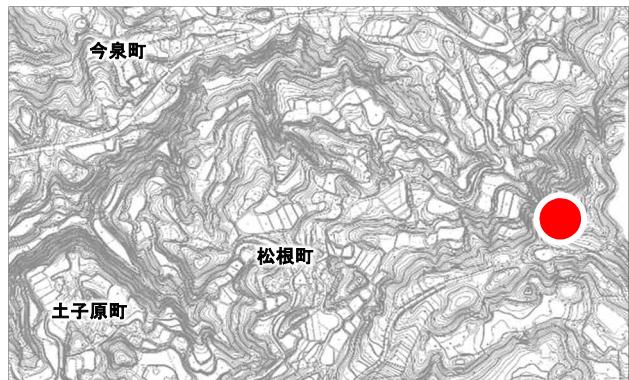
東経 $136^{\circ} 46' 56''$

調査面積: 33 m²

種別: 城館跡

主な時代: 平安、鎌倉、安土・桃山

担当: 鏡 主事



■ 松根城跡の概要

加越国境城跡群及び道は、加賀と越中の国界に築かれた山城とそれらをつなぐ街道で、切山城、松根城及び小原越は、平成 27 年に国史跡に指定されている。本能寺の変から 2 年後の天正 12 年(1584)、羽柴秀吉と織田信雄・徳川家康連合軍が織田信長亡き後の天下統一をめぐり争った「小牧・長久手の戦い」が勃発する。それに連動して、秀吉方の前田利家と家康方の佐々成政は、加賀と越中の国境付近に対峙することとなった。加越国境城跡群はこの時期に築造・改修されたと考えられ、当時の緊迫した状況を現在に伝える。

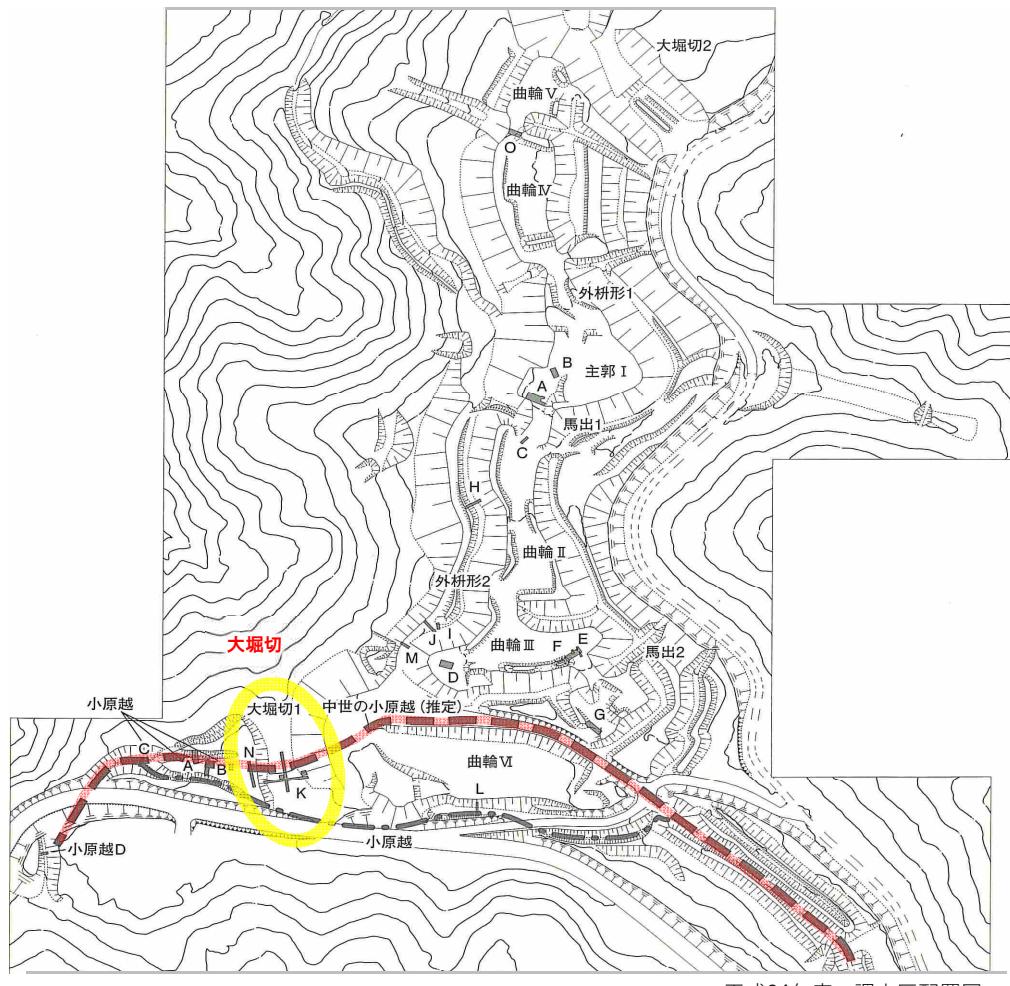
今回は松根城跡の南西側に位置する大堀切の調査を実施した。大堀切は、尾根筋上の旧小原越を切断しており、城が街道を戦時封鎖していることが確認できる松根城の主要遺構である。史跡指定以前となる平成 24 年度の発掘調査において、大堀切の堀底に土壘状の遺構とそれに並行する 2 条の堀跡が存在することが確認された。横方向の移動を制限するこの堀底仕切り状遺構は松根城の高い築城技術を示す遺構と考えられるが、現況では一部において盛土が施されており、本遺構を認識することができない。往時の姿への復元整備を検討するため、発掘調査によって詳細確認を行った。

今回調査の目的は、堀底仕切り状遺構の構造の再確認、大堀切法面と堀底仕切り状遺構との接続関係の確認、平成 24 年度に調査を実施していない堀底から現道部分にかけての状況及び遺構面までの深さの確認の 3 点である。計 4 箇所のトレンチを設定し、発掘調査を実施した。

中央トレンチ北では、堀底仕切り状遺構の構造について再確認を行った。堀底から頂点部までは約 2.4m を測り、南側は堀底から 1.1m の高さで立ち上がる。平成 24 年度調査で確認したものと同規模のものを確認することができた。中央トレンチ南では、堀底から現道部分にかけての状況及び遺構面までの深さの確認を行った。遺構がみられるわけではなく、平滑な岩盤を検出した。北側は現況面から 1.4m、南の現況道路側は約 1m を測り、標高をみても現況道路に向かって約 0.4m 上昇するような勾配が確認された。表土中より、近世以降の陶器片が出土したが、廃城後のものと考えられる。

東側トレンチ及び西側トレンチでは、大堀切法面と堀底仕切り状遺構との接続関係の確認を行った。東側トレンチでは、大堀切法面から南側堀の堀底まで鋭い傾斜で落ち込む状況が確認された一方で、西側トレンチにおいては、大堀切法面と南側堀との間に犬走状の平坦面が存在することが明らかとなつた。現況の様子から、東側においても犬走状平坦面が存在する可能性が考えられたが、トレンチを延伸したところ、急斜面が延長するのみで平坦面は検出されなかつた。

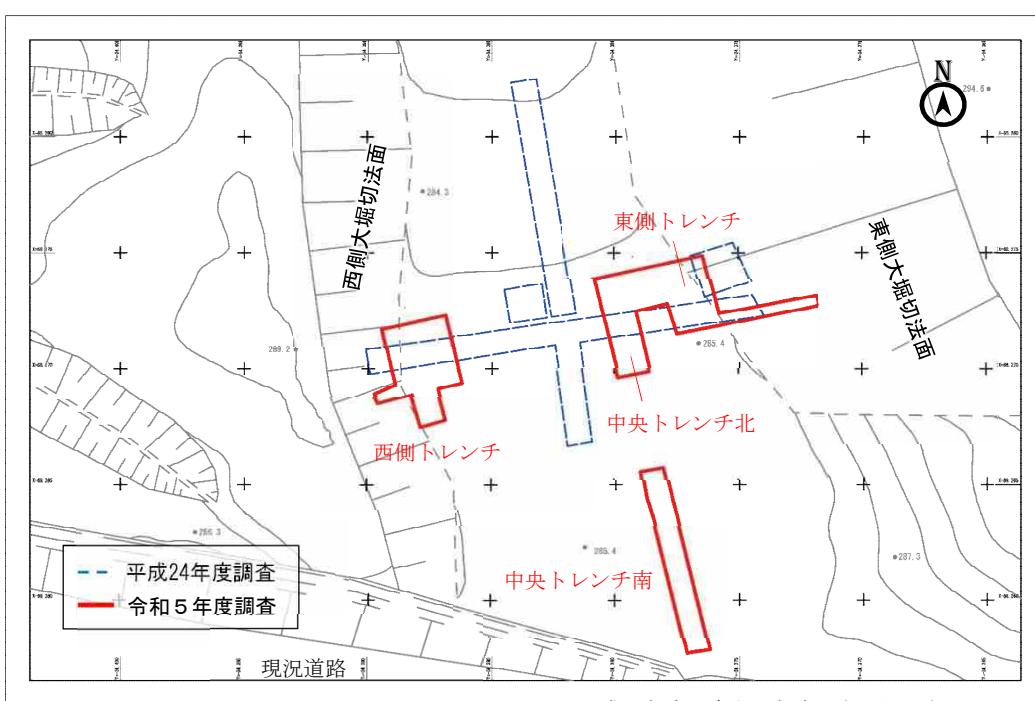
今回の発掘調査により、堀底仕切り状遺構について、西側と東側とで大堀切法面との接続関係に差異があること、現況道路側の状況と遺構面までの深さを新たに確認することができた。



平成24年度 調査区配置図



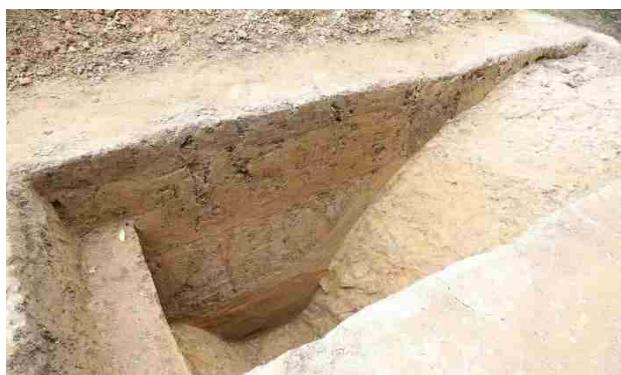
平成24年度調査 大堀切内部 南北トレンチ断面図



平成24年度・令和5年度 大堀切調査区配置図



トレンチ全体



中央トレンチ北



中央トレンチ南



中央トレンチ北・東側トレンチ



西側トレンチ

わくなみいせき つちようすえんしょうぐらあと たつみようすいちゅうりゅうぶかんりつうろいしがき
C. 涌波遺跡(土清水塩硝蔵跡・辰巳用水中流部管理通路石垣)

(遺跡番号 県: 112000 市: 555)

所在地: 金沢市涌波町地内

北緯 $36^{\circ} 52' 81''$

東経 $136^{\circ} 68' 83''$

調査面積: 約 40 m²(塩硝蔵)・約 25 m²(石垣)

種別: 生産遺跡

主な時代: 近世

担当: 庄田 主査



遺跡の概要

涌波遺跡は国史跡辰巳用水附土清水塩硝蔵跡のうち、江戸時代に加賀藩が設けた黒色火薬の製造施設である土清水塩硝蔵跡の一部を埋蔵文化財包蔵地として周知化したものである。

国庫補助金をえて、平成 19 年度から埋蔵文化財調査を継続的に実施しており、原材料の硝石を貯蔵した硝石御土蔵や辰巳用水の水流を動力として原材料を砕いていた搗藏、調合した原材料を練り伸ばしていた縮具所、敷地を区画していた堀などが確認され、平成 21 年度には国史跡辰巳用水の附として史跡指定されている。

史跡整備に係り、令和 5 年度は、令和 4 年度に第 6 次調査として実施した搗藏跡の南側において、辰巳用水から分流した水路の位置を精査するため発掘調査を実施した（調査区①②）。また、搗藏跡の南方の辰巳用水に隣接するエリアで、搗藏のある平坦面より一段高い平坦面がみられたため、遺構の有無を確認するための調査を実施した（調査区③④⑤）。幕末期の土清水塩硝蔵のようすを描いた「土清水製薬所六百分一図」（石川県立図書館蔵）には、搗藏は南北 30 間×東西 5 間の建物として描かれる。また、調査区④では礎石が検出されたが、同図では近隣に「イオウカチバ」という建物が描かれている。

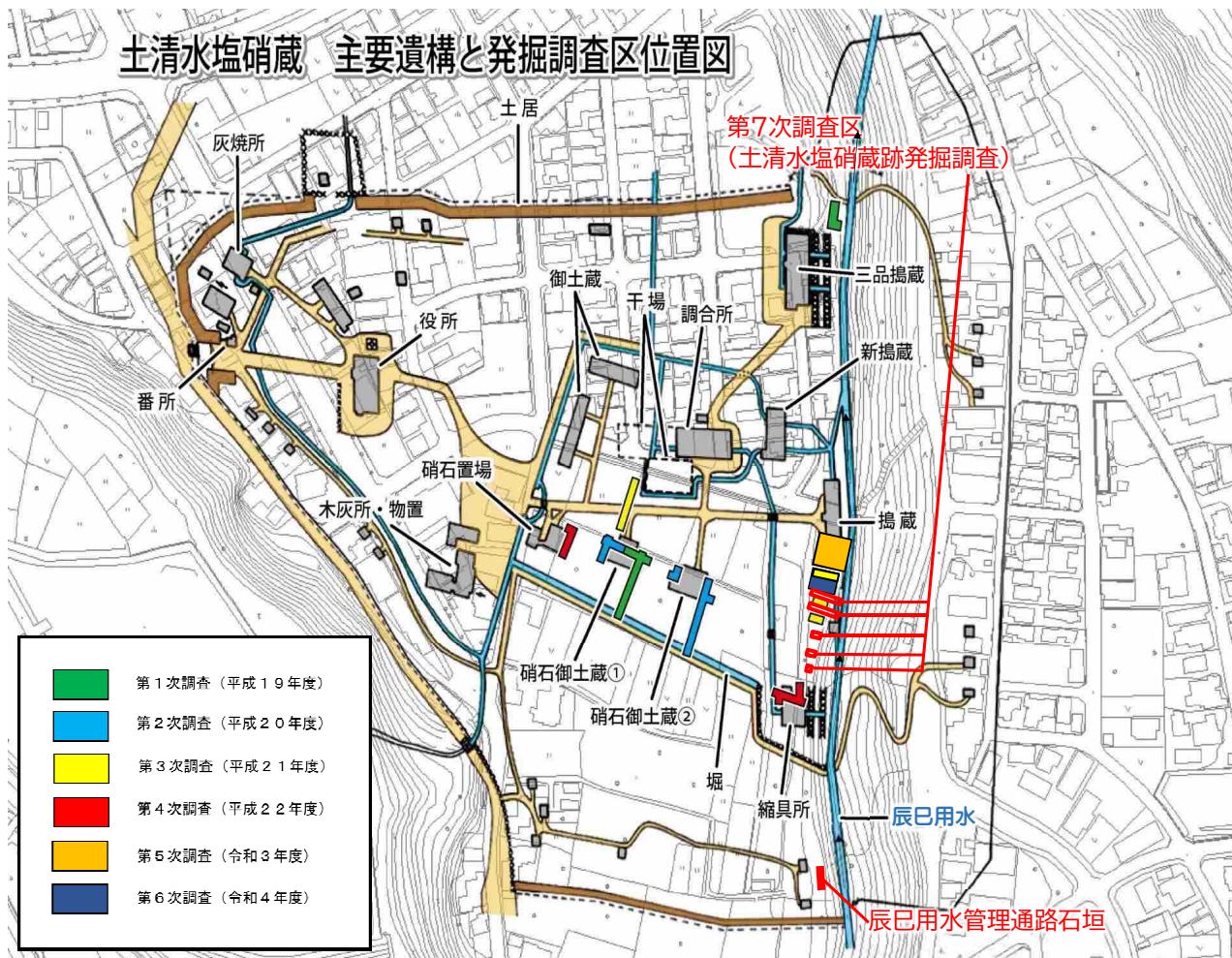
調査区①②では、第 5・6 次調査区で約 15m にわたって確認された、「搗藏」へ導水される水路の上流部で集石を確認した。水路の位置を示すものと思われる。第 3・5・6 次調査区から続く搗藏基壇の盛土を確認した。

調査区③では、搗藏南側の段差地形が地形を削って造成していることを確認した。

調査区④では、建物の礎石と基壇の盛り土、集石遺構を確認した。近隣の施設としては「イオウカチバ」があったことが知られている。

調査区⑤では、鉄軸のかかった丸瓦や平瓦がまとまって廃棄された状況を確認した。近隣の施設として知られる「イオウカチバ」のものと推測される。

このほか、涌波遺跡南東部においては、一部が崩落した辰巳用水管理通路の法面の石垣について、修理に伴う写真測量調査、発掘調査、石材の計測・撮影・観察記録を実施した。



辰巳用水管理通路石垣解体発掘調査



①水路跡と考えられる集石



①②搗藏土間の張り土



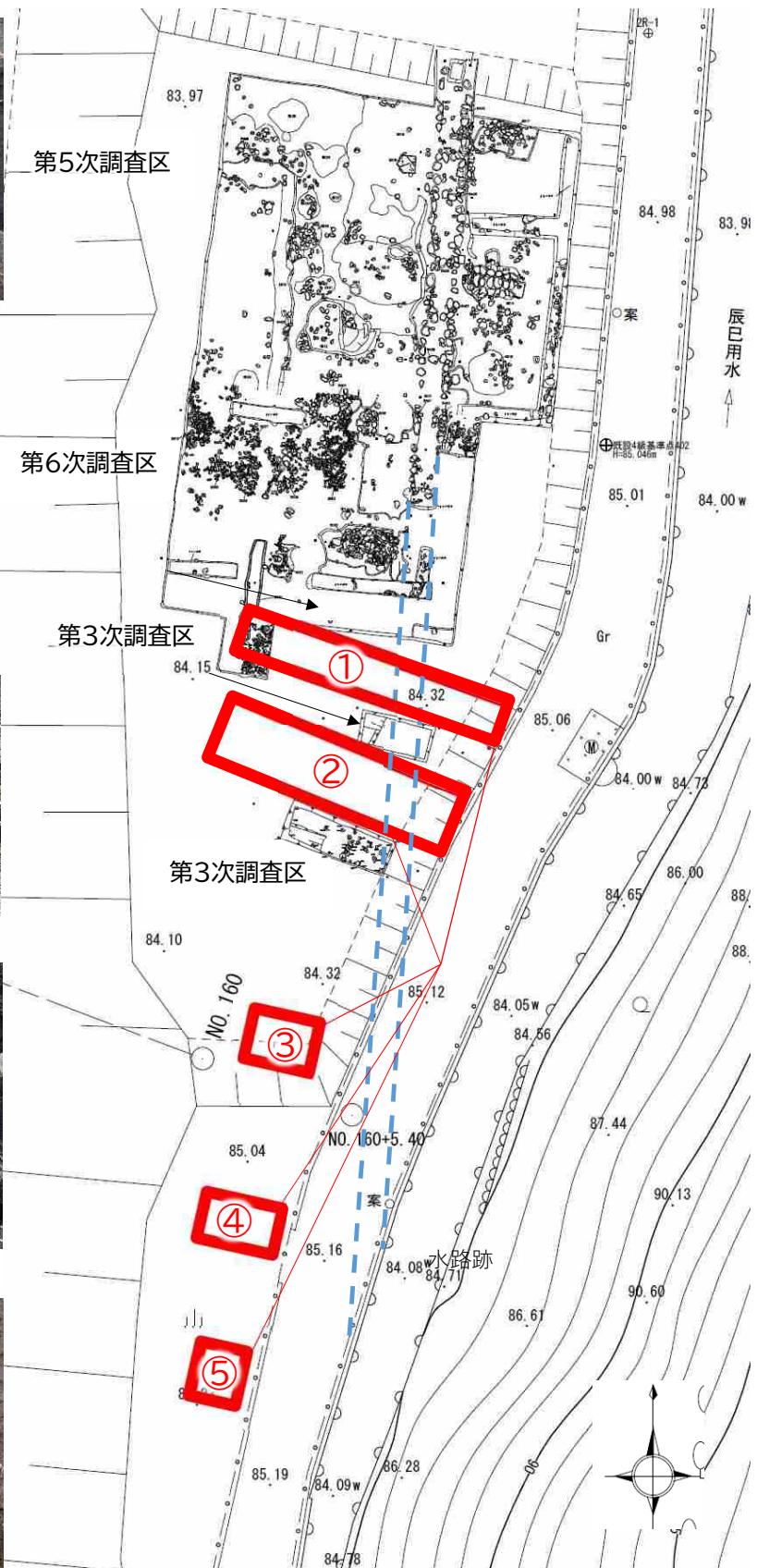
③段差地形の切り土



④建物基礎石と土間貼り土、集石遺構



⑤廃棄された鉄釉瓦



涌波遺跡（土清水塩硝蔵跡）第7次発掘調査位置図

D. 荒山城跡【加越国境城跡群及び道】

(遺跡番号 県: 1405 市: 284)

所在地: 金沢市荒山町・二俣町地内

北緯 $36^{\circ} 33' 52''$

東経 $136^{\circ} 46' 51''$

調査面積: 61 m²

種別: 城館跡

主な時代: 安土桃山

担当: 谷口 主査



■ 調査の目的

戦国期の加賀国と越中国を結ぶ国境の街道にはいくつもの山城が築造されていた。その歴史的背景は、本能寺の変以降、羽柴秀吉と徳川家康の対立が表層化し、加越においては秀吉方の前田利家と反秀吉方の佐々成政が国境を挟んで対峙したことに起因する。

加賀と越中を結ぶ街道には北国街道のほかに①小原越、②田近越、③二俣越などが知られており、①には切山城と松根城が、②には朝日山城と一乗寺城（小矢部市）が、③には高峰城と荒山城があり、それぞれ前者が前田方、後者が佐々方の最前線となって各街道の交通を押さえつつ対峙したと考えられている。このうち①は平成27年10月に「加越国境城跡群及び道」として国史跡に指定されており、金沢市では上記③について史跡の追加指定を目指した各種調査を実施している。令和5年度は昨年度に引き続き荒山城跡の発掘調査を実施した。

なお、荒山城跡の位置、環境、概要等については令和4年度の年報をご参照いただきたい。

■ 発掘調査の概要

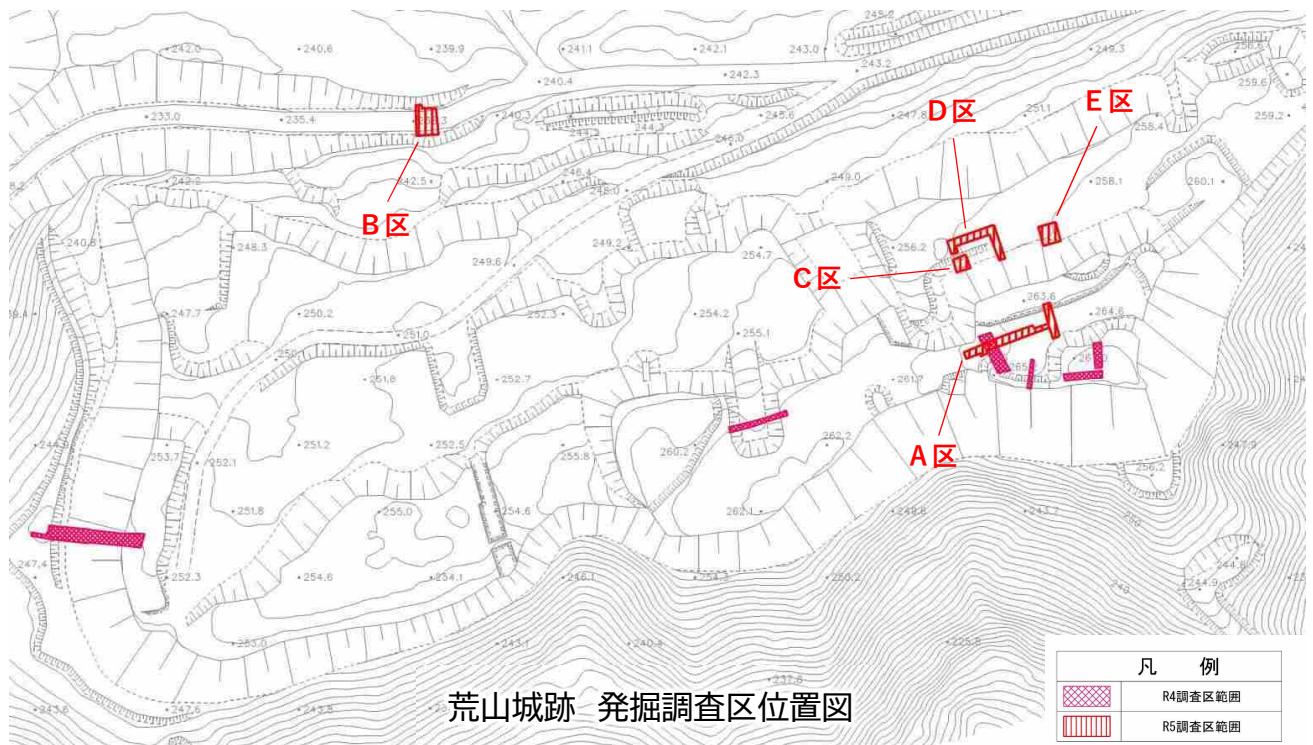
令和5年度は荒山城跡内の各所に設定した計5箇所の調査区で発掘調査を実施した。

主郭に設定したA区では地山を削平して平坦面を造成する構造が確認された。また、主郭への出入口付近で確認された焼土塊が混入する層には炭化した壁土及び小舞が多数含まれており、主郭付近には土壁を持つ構造物が存在していた可能性が非常に高い。

二俣越の路面上に設定したB区では①昭和期、②江戸期、③戦国期以前、の3時期の路面を確認した。②については当時の敷石の一部が検出され、江戸期において参勤交代ルートとしても使用された二俣越の整備状況が遺構として確認された。③は幅1.5m前後の溝状遺構として検出されているが遺物の出土がないため時期は不確定である。

主郭の北側に位置する曲輪ではC区・D区・E区を設定した。曲輪平坦面に設定したC区では調査区西端で落ち込みを確認している。D区は主郭と曲輪を隔てる切岸裾にあたる。現状でも溝状の落ち込みがわずかに確認できるが、調査により切岸裾に幅約1m、深さ約0.6mの溝状遺構が確認された。C区でも同様に切岸裾で溝状遺構を確認しているが、こちらは深さ約0.3mとやや浅くなっている。E区はD区で確認した溝状遺構の延長確認を目的としてC・D区の東方約15mに設定した。溝状遺構の延長は確認されなかったが、遺構面となる岩盤層を掘り下げて段差を設ける地形が確認されている。これらにより曲輪内を溝や段差等で細区画していた状況が想定され、現地形では把握できない当時の造成状況の一端を垣間見ることができる。

遺物はC区から磁器碗2点（江戸期）、珠洲焼2点（14世紀後半か）、E区から土師器皿1点（16世紀代）が出土しているがいずれも表土中からの出土である。



A区(東から)



A区(西から)



B区



C区



D区



E区

2. 埋蔵文化財分布調査事業

(1) 令和5年度埋蔵文化財分布調査の概要

金沢市では、公共事業に関する土木工事や建設工事等および民間の開発行為や農地転用の際に、金沢市遺跡地図に基づき図面調査及び現地での踏査・試掘調査を実施し、開発事業着手前に埋蔵文化財の有無を確認している。

令和5年度は金沢市施工の公共事業12件、民間の開発事業・農地転用等99件について、埋蔵文化財の有無を調査した。以下はその一覧である。

なお、平成23年度より、開発事業に伴う試掘確認調査については国庫及び県費補助事業にて実施しており、令和5年度の事業費は3,105千円であった。

このほか、周知の埋蔵文化財包蔵地内における工事に伴うもので、文化財保護法第93条（民間業者や個人）及び第94条（工事主体が金沢市）に基づく慎重工事及び工事立会での対応となったものは36件、発掘調査での対応となったものは4件で、別表のとおりであった。

■ 公共事業に係る埋蔵文化財調査一覧

ID	場所	事業名	担当課	調査日	面積	調査方法	有無	対応 (遺跡名)
1	出雲町地内	道路建設	道路建設課	4月27日	802.9m ²	試掘	無	支障なし (若宮遺跡)
2	鈴見台3丁目他1町地内	緑地崩落対策	道路建設課	5月16日	2,300.m ²	踏査	無	支障なし
3	百坂町地内	緑地崩落対策	道路建設課	5月16日	700.m ²	踏査	無	支障なし
4	東山1丁目地内	急傾斜地施設改築	道路建設課	5月16日	700.m ²	踏査	無	支障なし
5	磯部町地内	道路工事	道路建設課	6月15日	1m拡幅 L=360m	立会	無	支障なし (沖町遺跡)
6	二日市町地内	準用河川 二日市川	内水整備課	6月27日	約1,000m ²	試掘	無	支障なし
7	瓢箪町619番2	払下げ	道路管理課	7月20日	90.m ²	試掘	無	支障なし (瓢箪町遺跡)
8	矢木1丁目74番地	プール建設	営繕課	8月30日	560.m ²	試掘	無	支障なし
9	安江町455番1	用水集計整備	歴史都市推進課	8月1日	176.m ²	立会	無	支障なし (金沢城下町遺跡(安江町15番地点))
10	小立野5丁目地内(旧美大)	学校跡地活用	金沢美術工芸大学 建設事務所	11月22日	44,000.m ²	試掘	有	R6発掘調査 (経王寺遺跡)
11	塙崎町地内	保育所建設	保育幼稚園課	12月19日	5,000.m ²	試掘	無	支障なし (南森本・塙崎遺跡)
12	浅野本町地内(城北水質管理センター)	備蓄資在庫建設	企業局維持管理課	3月28日	530.61m ²	試掘	無	支障なし

ID	場所	行為の内容	申請日	回答日	面積	調査方法	結果	対応
1	森戸1丁目181番4	不動産売買	3月24日	4月4日	297.65m ²	試掘	無	支障なし (森戸住宅遺跡)
2	寺地1丁目310番	住宅建設	3月28日	4月4日	164.38m ²	試掘	無	支障なし (有松A遺跡)
3	長坂2丁目1405番1	住宅建設	3月20日	4月5日	139.m ²	試掘	無	支障なし (長坂A遺跡)
4	元町2丁目175外4筆	店舗建設	3月22日	4月5日	2,231.01m ²	試掘	無	支障なし
5	山科1丁目375外2筆	住宅建設	4月6日	4月6日	311.m ²	試掘	無	支障なし (山科カラバ遺跡)
6	東兼六町178番1外4筆	住宅建設	1月24日	4月11日	1,618.87m ²	試掘	無	支障なし
7	藤江南1丁目128番1外1筆	共同住宅建設	4月4日	4月10日	2,753.m ²	試掘	有	工事立会 (北町遺跡)
8	みどり1丁目71番	不動産売買	4月4日	4月12日	203.31m ²	試掘	無	支障なし (上安原緑団地遺跡)
9	銚子町リ335-1外23筆	駐車場建設	3月22日	4月12日	18,312.m ²	試掘	無	支障なし
10	畠田西3丁目151番地	不動産売買	3月24日	4月13日	54.21m ²	試掘	無	支障なし (畠田遺跡)
11	二ツ屋町514番、515番	住宅建設	4月6日	4月13日	312.04m ²	試掘	無	支障なし (二口六丁B遺跡)
12	神谷内町葵1番1外	宅地分譲	4月11日	4月18日	6,347.3m ²	試掘	無	支障なし
13	岩出町～地内	農地整備	4月12日	4月19日	5,510.m ²	試掘	無	支障なし
14	押野3丁目503	住宅建設	4月21日	4月24日	150.05m ²	試掘	無	支障なし (押野西遺跡)
15	高岡町2-15	宅地造成	4月24日	4月24日	81.m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
16	寺中町子40番5	住宅建設	4月17日	4月24日	100.m ²	試掘	無	支障なし (寺中B遺跡)
17	玉鉢1丁目56-1外2筆	事務所建設	4月14日	4月27日	1,052.8m ²	試掘	無	支障なし
18	八日市1丁目683番1	住宅建設	4月6日	5月9日	193.74m ²	試掘	無	支障なし (上宮寺跡)
19	館町二1番外	駐車場及び資材置場整備	4月27日	5月9日	7,320.m ²	試掘	無	支障なし
20	笠舞1丁目324	住宅建設	4月24日	5月10日	176.06m ²	試掘	無	支障なし (笠舞A遺跡)
21	金石本町ハ34番1	住宅建設	4月24日	6月7日	593.m ²	試掘	無	未定 (金石本町遺跡)
22	出雲町イ99番1	住宅建設	4月28日	5月11日	1,227.41m ²	試掘	無	支障なし
23	八日市4丁目390番	住宅建設	5月8日	5月16日	1,634.66m ²	試掘	無	支障なし (八日市ヤスマル遺跡)
24	四十万三丁目434番、543番	住宅建設	5月1日	5月16日	274.m ²	試掘	有	未定 (三十刈遺跡)
25	尾張町2丁目332番	共同住宅建設	4月21日	5月18日	1,240.88m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
26	寺地1丁目401番	住宅建設	5月17日	5月25日	155.8m ²	試掘	無	支障なし (寺地B遺跡)
27	畠田西3丁目92	住宅建設	6月1日	6月1日	341.81m ²	試掘	無	支障なし (畠田遺跡)
28	弥勒町ワ6番3外	宅地造成	5月29日	6月1日	1,321.56m ²	試掘	無	支障なし
29	福増町北847	住宅建設	6月15日	6月20日	128.32m ²	試掘	無	支障なし (安原工業団地A遺跡)
30	西金沢5丁目294	駐車場改装	6月12日	6月21日	241.m ²	試掘	無	支障なし (保古町遺跡)

ID	場所	行為の内容	申請日	回答日	面積	調査方法	結果	対応
31	寺中町～25番2	住宅建設	6月12日	6月22日	170.66m ²	試掘	有	工事立会 (寺中遺跡)
32	田中町ち6番1	屋外広告物設置	6月22日	8月22日	469.m ²	立会	無	支障なし (田中A遺跡)
33	小将町7-28	住宅建設	6月15日	6月26日	40.55m ²	試掘	有	未定 (奥村氏屋敷跡)
34	寺地1丁目400番	住宅建設	6月23日	6月27日	103.33m ²	試掘	無	支障なし (寺地B遺跡)
35	高岡町406-2	住宅建設	7月4日	7月4日	135.93 m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
36	寺中町ホ55-20	宅地造成	6月27日	7月12日	266. m ²	図面	有	未定 (畠田・寺中遺跡)
37	下新町1-6	事務所建設	7月14日	7月24日	111.02 m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
38	武蔵町99-3	店舗建設	7月7日	7月25日	189.26 m ²	試掘	有	未定 (金沢城下町遺跡)
39	尾張町1丁目131番外3筆	住宅建設	6月30日	8月4日	218.44 m ²	試掘	有	工事立会 (金沢城下町遺跡)
40	兼六元町482番	住宅建設	7月28日	8月4日	165.08 m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
41	大手町61番	住宅建設	2月27日	8月8日	57.85 m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
42	桂町ハ73番1外6筆	宅地分譲	8月1日	8月8日	1,765.57 m ²	試掘	無	支障なし
43	出雲町イ153	神社境内整備	3月22日	8月9日	458.21 m ²	立会	無	支障なし (若宮遺跡)
44	南新保町～58-3外3筆	道路拡幅工事	8月9日	8月9日	113. m ²	立会	無	支障なし (南新保C遺跡・南新保D遺跡)
45	専光寺町フ25番外2筆	工場建設	8月3日	8月10日	1,391.96 m ²	試掘	有	工事立会 (専光寺養魚場遺跡)
46	尾張町1丁目273番	店舗建設	8月9日	8月17日	102.47 m ²	試掘	有	慎重工事 (金沢城下町遺跡)
47	木越町ヅ7番	住宅建設	8月10日	8月18日	454.58 m ²	試掘	無	支障なし (木越専光寺跡)
48	松村7丁目87番1	住宅建設	8月10日	8月18日	278.43 m ²	試掘	無	支障なし (松村A遺跡)
49	田上本町ヨ36外	農地転用	7月10日	8月22日	1,515.91 m ²	試掘	無	支障なし
50	彦三1丁目127番外1筆	住宅建設	6月22日	8月24日	245.54 m ²	試掘	有	工事立会 (金沢城下町遺跡)
51	四十万3丁目303番4外1筆	住宅建設	8月22日	8月24日	294.28 m ²	試掘	無	支障なし (三十刈遺跡)
52	松村5丁目137番	住宅建設	8月22日	8月28日	473.31 m ²	試掘	無	支障なし (松村B遺跡)
53	八日市1丁目317番	住宅建設	8月22日	8月28日	689. m ²	試掘	無	支障なし (押野西遺跡)
54	角間町ヨ9番1他4筆	太陽光発電建設	9月13日	9月13日	7,450. m ²	踏査	無	支障なし
55	高岡町131番	住宅建設	9月4日	9月14日	268.87 m ²	試掘	有	工事立会 (金沢城下町遺跡)
56	三十刈町乙158番地外	宅地造成	9月19日	9月22日	1,612.87 m ²	試掘	無	支障なし
57	専光寺町ヨ50番2	駐車場建設	9月20日	9月26日	2,343.8 m ²	試掘	無	支障なし
58	押野3丁目602番外3筆	共同住宅建設	9月26日	10月3日	799.03 m ²	試掘	無	支障なし (押野西遺跡)
59	金石東3丁目1番21	宅地造成	9月29日	10月4日	194.6 m ²	試掘	無	支障なし (金石本町遺跡)
60	銚子町ト200番1	農業用倉庫建設	9月8日	10月5日	197. m ²	試掘	無	支障なし (館遺跡)

ID	場所	行為の内容	申請日	回答日	面積	調査方法	結果	対応
61	尾張町1丁目308番外5筆	店舗建設	9月19日	10月11日	492. m ²	試掘	有	未定 (金沢城下町遺跡)
62	長坂2丁目41番1外1筆	住宅建設	8月17日	10月12日	668.38 m ²	試掘	有	慎重工事 (長坂A遺跡)
63	諸江町上丁495-1外1筆	賃貸住宅建設	10月4日	10月12日	1,551. m ²	試掘	無	支障なし
64	塙崎町二76番外2筆	宅地造成	10月5日	10月13日	480.62 m ²	試掘	無	支障なし (塙崎タカキ遺跡)
65	伏見台1丁目38外3筆	共同住宅建設	10月17日	10月17日	1,069. m ²	試掘	無	支障なし
66	岩出町口29-1外1筆	農地整備	10月19日	10月24日	663. m ²	試掘	無	支障なし (岩出うつぼ遺跡)
67	松村7丁目62番1	宅地造成	10月20日	10月25日	670.6 m ²	試掘	無	支障なし (松村A遺跡)
68	辰巳町ハ12番外	農地転用	5月1日	10月25日	5,929. m ²	試掘	無	支障なし
69	上荒屋6丁目327番外2筆	住宅建設	9月29日	10月31日	1,673.77 m ²	試掘	無	支障なし
70	畠田西3丁目181-6	住宅建設	10月24日	10月31日	139.16 m ²	試掘	無	支障なし (畠田大徳川遺跡)
71	黒田2丁目394番1	住宅建設	10月31日	11月2日	153.41 m ²	試掘	有	工事立会 (黒田町遺跡)
72	諸江町上丁489外2筆	事務所建設	11月6日	11月10日	2,425. m ²	試掘	無	支障なし
73	米泉町5丁目10	幼保連携認定こども園建設	11月10日	11月20日	3,471.48 m ²	試掘	無	支障なし
74	兼六元町11-7	開発	11月21日	11月27日	969.68 m ²	試掘	有	未定 (金沢城下町遺跡)
75	駅西本町2丁目205番の一部	住宅建設	9月15日	11月27日	120.15 m ²	試掘	無	支障なし (二口町遺跡)
76	高尾台2丁目194番	住宅建設	10月31日	11月30日	323.5 m ²	試掘	無	支障なし (高尾公園遺跡)
77	南新保町地内	区画整理	10月24日	12月4日	1,575. m ²	試掘	無	支障なし (南新保D遺跡)
78	畠田西2丁目81番	住宅建設	12月7日	12月14日	81.51 m ²	試掘	無	支障なし (畠田大徳川遺跡)
79	上山町丑17外7筆	畜舎新築工事	12月6日	12月14日	3,000. m ²	試掘	無	支障なし
80	南新保町、大友1丁目地内	区画整理	12月14日	12月25日	4,257.43 m ²	試掘	有	R7発掘調査予定 (南新保C遺跡)
81	尾張町1丁目316-2	長屋建設	11月9日	1月9日	273.98 m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
82	金石本町地内	住宅建設	12月20日	1月11日	165.33 m ²	試掘	無	支障なし (金石本町遺跡)
83	高柳町二字78番2外3筆	ゴルフ場練習施設拡張	12月28日	1月11日	1,502. m ²	試掘	無	支障なし (沖町遺跡)
84	八日市1丁目283番外4筆	共同住宅建設	12月15日	1月17日	2,026.96 m ²	試掘	有	工事立会 (八日市D遺跡)
85	彦三町1丁目59	住宅建設	1月16日	1月19日	329.47 m ²	試掘	有	工事立会 (金沢城下町遺跡)
86	高岡町6-5	旅館建設	10月26日	2月13日	614.27 m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
87	古府町西155	看板設置	1月29日	1月29日	6. m ²	立会	無	支障なし (古府クルビ遺跡)
88	元菊町68番1	住宅建設	2月2日	2月14日	152.65 m ²	試掘	無	支障なし (元菊町遺跡)
89	米泉町2丁目55番1	屋外広告物設置	2月19日	2月19日	124. m ²	立会	無	支障なし (米泉遺跡)
90	高尾台1丁目180外2筆	農地転用	1月12日	2月26日	624. m ²	試掘	無	支障なし (高尾天神堂遺跡)

ID	場所	行為の内容	申請日	回答日	面積	調査方法	結果	対応
91	田中町い32番の一部	住宅建設	2月27日	3月5日	359.61 m ²	試掘	無	支障なし (田中C遺跡)
92	南森本町二3-1外2筆	農地転用	3月1日	3月5日	2,149. m ²	試掘	無	支障なし
93	石引4丁目14-9外1筆	宅地造成	9月28日	3月7日	664.32 m ²	試掘	有	未定 (金沢城下町遺跡)
94	錦町式の45-2外7筆	店舗建設	3月6日	3月18日	3,220. m ²	試掘	無	支障なし
95	大手町357-1外1筆	病院の増設	3月12日	3月19日	412.07 m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
96	伏見台3丁目地内	住宅建設	3月12日	3月19日	258. m ²	試掘	有	未定 (寺地向田遺跡)
97	畠田中2丁目113番	住宅建設	2月22日	3月21日	181.84 m ²	試掘	無	支障なし (畠田御台場遺跡)
98	西町藪ノ内通35-1外2筆	駐車場建設	2月22日	3月27日	98.5 m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
99	泉野町5丁目119番	住宅建設	3月19日	3月28日	219.04 m ²	試掘	無	支障なし (泉野遺跡)

(別表)土木工事のための埋蔵文化財発掘届・発掘通知一覧

ID	届・通知の別	場 所	行 為 の 内 容	届出日	取 扱 通 知 日	面 積	遺 踪 名	対 応
1	93条(届)	兼六元町56-1番、78番	有料老人ホーム建設	4月20日	4月20日	2,185.50 m ²	金沢城下町遺跡(兼六元町3番地点)	発掘調査
2	94条(通知)	小将町3-1外11筆	プール建設	4月27日	4月27日	15,000.00 m ²	金沢城下町遺跡(奥村氏(支家)屋敷跡地区)	発掘調査
3	93条(届)	松村三丁目372番1	分譲住宅新築工事	5月15日	5月15日	151.54 m ²	松村高見遺跡	工事立会
4	93条(届)	松村三丁目372番3	分譲住宅新築工事	5月15日	5月15日	156.70 m ²	松村高見遺跡	工事立会
5	93条(届)	松村三丁目372番2	分譲住宅新築工事	5月19日	5月19日	150.10 m ²	松村高見遺跡	工事立会
6	93条(届)	矢木2丁目68番6	住宅建設	5月30日	5月30日	161.80 m ²	矢木ヒガシウラ遺跡	慎重工事
7	93条(届)	藤江南1丁目128番1外1筆	宅地造成の為の擁壁工事	5月30日	5月30日	6.00 m ²	北町遺跡	工事立会
8	93条(届)	大友1丁目31	区画整理	5月30日	5月30日	804.00 m ²	南新保ゴマヂマチ遺跡	工事立会
9	93条(届)	大友1丁目171	区画整理	6月1日	6月1日	854.00 m ²	南新保ゴマヂマチ遺跡	工事立会
10	93条(届)	藤江南1丁目128番1外1筆	宅地造成の為の擁壁工事	6月16日	6月16日	2,753.44 m ²	北町遺跡	工事立会
11	93条(届)	藤江南1丁目128番1の一部	共同住宅建設	7月3日	7月3日	671.87 m ²	北町遺跡	工事立会
12	93条(届)	藤江南1丁目128番1の一部	共同住宅建設	7月3日	7月3日	670.06 m ²	北町遺跡	工事立会
13	93条(届)	近岡町182外4筆	区画整理	7月5日	7月5日	2,074.00 m ²	近岡シタンダ遺跡	発掘調査
14	93条(届)	高尾三丁目78番1	分譲住宅建設	7月12日	7月12日	158.70 m ²	高尾新町遺跡	工事立会
15	93条(届)	八日市三丁目410番外3筆	宅地造成	7月13日	7月13日	1,384.00 m ²	八日市B遺跡	慎重工事
16	93条(届)	田上の里2丁目173番	個人住宅建設	7月18日	7月18日	317.11 m ²	田上北遺跡	慎重工事
17	93条(届)	寺中町へ25番2	個人住宅建設	7月24日	7月24日	170.66 m ²	寺中遺跡	工事立会
18	93条(届)	兼六元町56-1番	有料老人ホーム建設に伴う抑止杭の施工	7月26日	7月26日	2,185.31 m ²	金沢城下町遺跡(兼六元町3番地点)	工事立会
19	93条(届)	藤江南1丁目128番1外1筆	私有橋の設置	7月28日	7月28日	24.00 m ²	北町遺跡	工事立会
20	94条(通知)	安江町455番1	用水集計整備	8月1日	8月1日	176.00 m ²	金沢城下町遺跡(安江町15番地点)	工事立会
21	93条(届)	戸板1丁目140番	共同住宅建設	8月4日	8月4日	399.92 m ²	薬師堂遺跡	工事立会
22	93条(届)	尾張町1丁目131番外3筆	個人住宅建設	8月10日	8月10日	218.44 m ²	金沢城下町遺跡(尾張町1丁目4番地点)	工事立会
23	93条(届)	藤江南1丁目129番1の一部	共同住宅建設	8月17日	8月17日	207.28 m ²	北町遺跡	工事立会
24	93条(届)	藤江南1丁目128番1の一部、129番1の一部	共同住宅建設	8月17日	8月17日	213.08 m ²	北町遺跡	工事立会
25	94条(通知)	石引1丁目1番地1先～石引1丁目113番地先	下水道管改築	8月22日	8月22日	22.00 m ²	辰巳用水	工事立会
26	93条(届)	戸板5丁目31番外1筆	車庫建設	8月28日	8月28日	115.68 m ²	桜田示野中遺跡	慎重工事
27	93条(届)	八日市三丁目410-2外5筆	分譲住宅建設	8月28日	8月28日	919.66 m ²	八日市B遺跡	慎重工事
28	93条(届)	彦三町1丁目5-10外2筆	個人住宅建設	9月7日	9月7日	245.54 m ²	金沢城下町遺跡(彦三町1丁目5番地点)	工事立会
29	94条(通知)	主計町318番地1	園地整備	9月12日	9月12日	196.00 m ²	金沢城下町遺跡(主計町3番地点)	工事立会
30	93条(届)	尾張町1丁目273番	店舗増築	9月12日	9月12日	102.47 m ²	金沢城下町遺跡(尾張町1丁目2番地点)	慎重工事
31	93条(届)	岩出町口17番1外6筆	工場建設	9月13日	9月13日	2,900.08 m ²	岩出うつぼ遺跡	工事立会
32	93条(届)	専光寺町25番外2筆	工場増築	9月22日	9月22日	1,391. m ²	専光寺養魚場遺跡	慎重工事
33	93条(届)	高岡町131番地	個人住宅建設	9月22日	9月22日	268.87 m ²	金沢城下町遺跡(高岡町2番地点)	工事立会
34	93条(届)	戸板1丁目125番外1筆	個人住宅建設	10月11日	10月11日	239.87 m ²	薬師堂遺跡	工事立会
35	93条(届)	長坂二丁目41番1外1筆	個人住宅建設	10月24日	10月24日	187.5 m ²	長坂A遺跡	慎重工事
36	93条(届)	黒田2丁目394番1	個人住宅建設	11月7日	11月7日	153.41 m ²	黒田町遺跡	工事立会
37	93条(届)	木曳野1丁目38番	個人住宅建設	11月20日	11月20日	163.52 m ²	畝田・寺中遺跡	工事立会
38	94条(通知)	宝町24番1	大学跡地再開発利用	11月28日	11月28日	450. m ²	経王寺遺跡	発掘調査
39	93条(届)	直江西1丁目6番の一部他2筆	住宅展示場建設	12月15日	12月15日	278.1 m ²	直江北遺跡	慎重工事
40	93条(届)	彦三町1丁目59	車庫建設	1月24日	1月24日	329.47 m ²	金沢城下町遺跡(彦三町1丁目3番地点)	工事立会

3. 教育・普及・啓発活動事業

(1) 金沢縄文ワールド

① 概要

金沢市いなほ1丁目に所在する中屋サワ遺跡は、縄文時代晩期を主体とした多量かつ多様な土器や漆塗製品を含む木製品、石製品などが出土した遺跡である。特に漆塗製品は遺存状態が良好なものが多く、編みカゴを漆で塗り固めた籃胎漆器、漆塗りの装飾弓、腕輪、堅櫛など、多彩な遺物が出土しており、当時の漆工技術の実態がよく示されている。縄文土器には北陸地方の縄文時代晩期の形式をよく示すだけでなく他地域の影響が見られるものも含まれている。これらは北陸地方における縄文時代晩期の文化と生活様式を良く示しているとして、平成26年8月21日に重要文化財に指定された。

チカモリ遺跡は金沢市新保本5丁目に所在し、昭和50年代の発掘調査で環状木柱列と呼ばれる半截したクリ材を円形に立て並べた建造物が確認されたほか、計349点にも及ぶ木柱根が出土している。遺跡は中心部がチカモリ遺跡公園として整備され、昭和62年2月23日に国史跡に指定されたほか、出土した木柱根のうち57点が石川県指定文化財に指定されている。

金沢市では、これら縄文時代晩期の貴重な資料を適切に保管するとともに広く一般に展示・公開する施設として、金沢市埋蔵文化財センター内に「金沢縄文ワールド」を設置した。館内には常設展示コーナーと企画展示コーナーを設け、重要文化財「中屋サワ遺跡出土品」を主体に様々な視点から金沢市内の縄文時代を紹介する展示を行っているほか、2階には勾玉作りや縄文コースター作りなどの各種古代体験に挑戦できる縄文体験コーナーを併設している。また、重要文化財指定物件を保管する特別収蔵庫を併設し、貴重な考古資料の保存継承を図っている。

なお、令和6年1月1日に発生した能登半島地震により、常設展の中屋サワ遺跡出土品（重文）、企画展の中屋サワ遺跡出土土器（未指定）が数点倒れ破損したため、1月4日・5日を臨時休館とし、復旧作業を行った。1月6日から通常どおり開館し、破損した重文の土器は翌年度以降、修理する予定である。

所在地 石川県金沢市上安原南60番地 金沢市埋蔵文化財センター内

開館時間 9時30分から17時00分まで（入館は16時30分まで）

休館日 月曜日、年末年始（12/29～1/3）

※月曜日が祝日の場合は開館し、その次の平日に休館

入館料 無料

入館者数 平成27年度 1,111人（平成27年11月8日～平成28年3月31日）

平成28年度 3,102人（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

平成29年度 3,209人（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

平成30年度 3,803人（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

令和元年度 3,810人（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

令和2年度 2,148人（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

令和3年度 1,981人（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

令和4年度 2,225人（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

令和5年度 2,390人（令和5年4月1日～令和6年3月31日）



② 常設展示

金沢縄文ワールドにおいて重要文化財「中屋サワ遺跡出土品」及び国史跡「チカモリ遺跡」出土品を常設展示するにあたり、貴重な考古資料を適切に保存管理しつつ、その魅力を広く公開するという基本理念のもと、以下のコンセプトによる展示を行っている。

1. 中屋サワ遺跡やチカモリ遺跡の出土品の特色及び独自性を演出する展示
2. 若年層から高齢者まで、幅広いニーズに対応できる演出
3. 「触れて、楽しみ、学ぶ」ことができる体験型展示手法の採用
4. 各種分析や実験考古学など最新の研究成果を反映した展示

これにメンテナンス性や環境への配慮を加えた結果、常設展示では「巨木の文化」「漆と装飾」の2大テーマに基づいた展示・解説を企画したほか、タッチパネルを操作して金沢市内の縄文遺跡や発掘調査の流れなどが検索できる「縄文の考古楽」コーナー、ゲームを通して縄文時代の石斧や弓の使い方を体験できる「実験考古学」コーナーを併設した。

■巨木の文化

展示室中央にシンボル展示としてチカモリ遺跡の環状木柱列を室内復元し、大型スクリーンの映像とともに往時の環境を再現している。また、中屋サワ遺跡から出土した豊富な木製品を展示し、縄文時代晩期の優れた木工技術を紹介している。



シンボル展示



常設展示「巨木の文化」

■漆と装飾

中屋サワ遺跡から出土した漆塗木製品や縄文土器を展示し、その高い技術と独自のデザイン性を通して、縄文時代晚期の金沢に住んだ人々が持っていたワザと美意識を紹介している。特に漆塗木製品は籃胎漆器や木胎漆器、弓、櫛、腕輪など多岐に渡る第一級の資料を展示しており、当該時期の金沢における優れた漆芸文化の一端を垣間見ることができる。



常設展「漆と装飾」



「縄文の考古楽」コーナー

③ 企画展示

企画展示コーナーでは、常設展示とは別に、毎回異なるテーマに基づいた展示を行い、金沢を中心とした北陸地方の遺跡と出土遺物を紹介している。令和5年度は4回の企画展を開催した。ポスター等の印刷費には、一部文化庁の補助金を充てている。

企画展「遺跡はタイムカプセル！」

会期 令和5年6月10日（土）～令和5年9月10日（日）

概要 小学生が授業で歴史を学び始める時期にあわせ、市内の遺跡出土品で通史を学ぶような構成にした。常設展示が縄文時代なので、弥生時代から江戸時代の代表的な遺跡を選んで展示した。独立展示台に弥生時代から平安時代の鏡5面を集めて、観覧者の目をひいた。

展示資料 金沢市出土の鏡…紋様不明鏡（大友西遺跡）、重圏文鏡（西念・南新保遺跡）、珠文鏡（下安原遺跡）、内行花文鏡（神谷内12号墳）、瑞花双鳳八稜鏡（大友西遺跡）

弥生時代…鳥形土器（専光寺養魚場遺跡）、「鹿」「渦巻カ」絵画土器・水差形土器など（上安原遺跡）、井戸埋納の甕・壺・台付長頸壺（大友西遺跡）

古墳時代…大刀・ガラス小玉・管玉・赤彩した供献土器群など（神谷内古墳群）

奈良・平安時代…長胴甕・小甕・「解足」「太」墨書須恵器（金石本町遺跡）、横瓶（畠田・寺中遺跡）

鎌倉・室町時代…巻数板・松を描いた土師器小皿・青磁壺・天目碗など（堅田館跡）

江戸時代…被熱した大皿・そば猪口・鉢・火鉢・灯明皿など（広坂1丁目遺跡）

企画展「加賀の古代津湊—金沢西部の遺跡群の世界」

会期 令和5年9月16日（土）～令和5年12月10日（日）

概要 令和5年、西暦2023年は、律令制度による最後の立国として加賀国が成立してから1200年目にあたる。これを記念して、加賀立国前後の港湾遺跡を紹介することとした。市西部の臨海地域は、金沢港が整備された昭和40年代から大規模な開発が相次いだため多くの遺跡が発掘されており、質量ともに豊富な遺物が発見されている。その遺物を年代ごとに構成・展示した。

展示資料 在地豪族の津湊から郡津へ…淨瓶・円面硯など（金石本町遺跡）、「津司」「語」
墨書須恵器など（畠田・寺中遺跡）

加賀の国府津と便処…唐花鏡・獸脚付円面硯など（戸水C遺跡）、土製仏像・花文
帶金具など（畠田ナベタ遺跡）、「宿家」墨書須恵器・銅製
鈴など（戸水大西遺跡）

津の祭祀集団の集落…「ヰ」墨書須恵器・人形・馬形など（大友E遺跡）

津周辺の莊園遺跡…瑞花双鳳八稜鏡・刀子など（大友西遺跡）、「常石」墨書須恵器・土鈴など（西念・南新保遺跡）

企画展「その後の中屋サワ遺跡」

会期 令和5年12月19日（火）～令和6年3月10日（日）

概要 令和6年は中屋サワ遺跡の発掘調査が終わって20年目、縄文時代の遺物が重要文化財に指定されて10年目にあたる。ふだん注目されることは無いが、縄文時代以降も豊富な資料を出土した複合遺跡である。そのことを示すため、弥生時代から室町時代まで時代を追って遺物を展示了。

展示資料 大きな農具…大型砥石、大型石庖丁

弥生時代…絵画土器「魚」「動物」、打製石斧、石皿、石剣、口縁に加飾した甕、
方形周溝墓から出土した細頸壺など

古墳時代…勾玉、管玉、丸玉、紡錘車、ミニチュア土器、団扇、ピットに埋納され
た壺と甕など

奈良・平安時代…木簡「六段百八十歩…」、転用硯、「上」漆書須恵器、「丸人」
「小繩女」など墨書須恵器、ミニチュア広口瓶、刻字のある土錐
など

鎌倉・室町時代…灯明皿、かわらけ、すり鉢、木簡「いろは…」、輸入錢、青白磁
梅瓶、青磁碗など

企画展「石川中央都市圏歴史資料展－江戸時代編－」

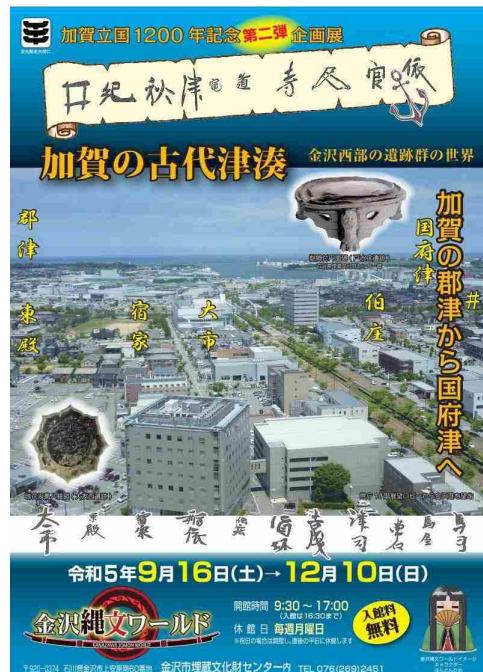
会期 令和6年3月16日（土）～令和6年6月9日（日）（予定）

概要 石川中央都市圏に属する金沢市、かほく市、野々市市、白山市、内灘町、津幡町の4市2町が連携して行う巡回展示である。平成29年度から毎年、対象とする時代を変えて行っており、今回が7回目である。これまで展示品のほとんどが考古資料であったが、江戸時代が対象となる今回は、市町によっては民俗資料や文献史料を出品している。

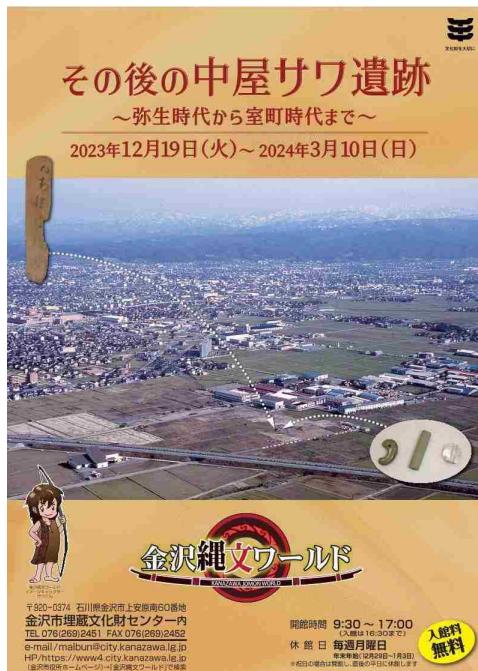
展示資料 金沢市…金沢城下町遺跡出土の絵皿、「乾山」銘のある向付（安江町遺跡）、仏像・香炉原型（昭和町遺跡）など
 白山市…土製ミニチュア（箱庭道具）・土人形など（松任城址）、植木鉢・行燈皿など（東町遺跡）
 かほく市…鬼瓦・平瓦切型など瓦製作道具（かほく市所蔵資料）
 野々市市…すり鉢など（栗田遺跡）、鉄鍋（三日市A遺跡）
 津幡町…菅笠・矢立・旅枕など津幡宿宿場町関連資料（津幡町教育委員会蔵）
 内灘町…文書「本根布領渦縁新開願」・植林絵図「河北郡金津組海岸村々領濱木苗植付場所等見取図」（内灘町蔵）



「遺跡はタイムカプセル！」チラシ



「加賀の古代津湊」チラシ



「その後の中屋サワ遺跡」チラシ



「石川中央都市圏歴史資料展-江戸時代編-」チラシ

④ 縄文文化体験コーナー

金沢縄文ワールドの開設に併せ、金沢市埋蔵文化財センターの2階に縄文文化体験コーナーを併設し、様々な縄文体験を無料で実施している。同コーナーの体験メニューはいつでも体験できる**通年メニュー**と、毎月内容が変わる**期間限定メニュー**の2種類がある。いずれも縄文時代の文化や生業を追体験できる内容となっており、当館の体験型展示コンセプトの一翼を担っている。

今年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、古代衣装試着・土器パズルおよび期間限定の一部メニュー（縄文かご作り）は中止した。歴史文様しおり作り体験は、スクラッチシートに各時代を象徴する文様や絵柄をあらかじめ印刷しておき、体験者がそれを爪楊枝などでなぞり、カラフルな文様を描き出すもので、できあがりが美しく手軽であることから人気のメニューである。

通年メニュー 勾玉作り 拓本作り ペーパークラフト ぬりえ 歴史文様しおり作り
縄文スタンプ

期間限定メニュー くみひも作り（4～6月） うでわ作り（7～9月） 土笛作り（10～12月）
縄文コースター作り（1～3月）

※期間限定メニューの開催時期はホームページ等でご確認いただきたい。

※ペーパークラフトは金沢縄文ワールドのホームページでダウンロードできる。

<http://www4.city.kanazawa.lg.jp/11104/bunkazaimain/maizou/15.html>

利用実績 平成27年度 449人（平成27年11月8日～平成28年3月31日）
平成28年度 1,919人（平成28年4月1日～平成29年3月31日）
平成29年度 2,140人（平成29年4月1日～平成30年3月31日）
平成30年度 2,322人（平成30年4月1日～平成31年3月31日）
令和元年度 2,393人（平成31年4月1日～令和2年3月31日）
令和2年度 1,111人（令和2年4月1日～令和3年3月31日）
令和3年度 988人（令和3年4月1日～令和4年3月31日）
令和4年度 1,165人（令和4年4月1日～令和5年3月31日）
令和5年度 1,471人（令和5年4月1日～令和6年3月31日）



体験コーナーでの勾玉作りの様子



勾玉作り



ペーパークラフト



歴史文様しおり作り

⑤ 金沢縄文ワールド見学バス助成制度

金沢縄文ワールドでは、重要文化財「中屋サワ遺跡出土品」等の展示を通して本市の縄文遺跡の魅力を紹介している。また、併設する縄文体験コーナーでは、勾玉作りなど様々な縄文文化を無料で体験することができる。当館では、金沢縄文ワールドを初めとした本市及び近郊の縄文遺跡の見学・体験を希望する小学校や関連団体に対し、往復のバス使用料を助成する制度を実施しており、歴史学習や校外活動に活用されている。なお、助成金の内に文化庁の補助金を充てている。

見学コースは下記の4コースを設定しており、申込団体が希望するコースを選択できる。見学バス助成は予算上10団体程度を募集しているが、助成に依らない団体見学は随時受け入れている。

令和5年度は4～9月に市内小学校7校がこの制度を利用した。

① 展示見学コース 一金沢縄文ワールドの展示と館内の見学一

行 程 金沢縄文ワールド（展示見学、館内設備見学）

所要時間 約40分

② 縄文文化体験コース 一金沢縄文ワールド展示見学と縄文体験一

行 程 金沢縄文ワールド（展示見学、縄文体験（勾玉作り等））

所要時間 約90分

③ 縄文文化探訪コース 一金沢縄文ワールド展示見学と近郊の縄文遺跡めぐり一

行 程 金沢縄文ワールド、御経塚遺跡公園、チカモリ遺跡公園

所要時間 約120分

④ 古代の里探訪コース 一金沢縄文ワールド展示見学とふるさとの国史跡めぐり一

行 程 金沢縄文ワールド、上荒屋史跡公園、東大寺領横江荘遺跡荘家跡

御経塚遺跡公園、チカモリ遺跡公園

所要時間 約120分

利用実績	平成27年度	5団体	168人
	平成28年度	7団体	288人
	平成29年度	9団体	423人
	平成30年度	6団体	312人
	令和元年度	7団体	408人
	令和2年度	2団体	82人
	令和3年度	5団体	305人
	令和4年度	9団体	347人
	令和5年度	7団体	434人



助成制度によるバス運行

(2) 歴史ふれあい講座

当センターでは平成 12 年度より、職員が市内の小学校へ出向き、郷土の歴史と埋蔵文化財について小学校 6 年生に講義を行う「歴史ふれあい講座」を行っている。

講座内では縄文時代から古墳時代の歴史について学び、実際に遺物に触れる土器実見と勾玉作りの体験、火起こし体験を行う。さらに現在の生活と文化財との接点を意識してもらえるよう、各小学校の校区内に所在する文化財や埋蔵文化財包蔵地を記した「文化財マップ」を配布し、校区内の遺跡から発掘された出土品を展示している。

平成 22 年度からは、金沢文化財ボランティア「うめばちの会」の協力のもと、公私共同で事業を行っている。今年度は 4 月 25 日の三和小学校から始まり、6 月 21 日の四十万小学校に終わる 25 校で開催した。うち 15 校で勾玉作りを、9 校で火起こしを、1 校で土器実見を行った。参加児童数は 1,663 名で、平成 12 年度からの累計は 38,389 名となった。

《過去5年間の事業実績》

実施年度	学校数	講座数	児童数
令和元年度	19	58	1,928
令和 2 年度	新型コロナウイルスにより中止		
令和 3 年度	12	26	838
令和 4 年度	23	39	1,297
令和 5 年度	25	53	1,663



火起こし体験の様子

(3) 金沢こども歴史探検隊

金沢市埋蔵文化財センターでは、将来を担う子どもたちを対象に、市内の史跡・建造物など実物の歴史遺産をフィールドとした歴史体感活動「金沢こども歴史探検隊」を平成 15 年度より実施している。この活動は、ふるさとの歴史をより深く理解してもらうことで、地域と協働して貴重な歴史文化遺産を護っていく「金沢型の文化財保存活動」の実現をめざす環境を醸成することを目的としている。

第 23 回目となる令和 5 年度は、「チャレンジ！遺跡体験発掘 S4（シーズンフォー）」と題し、南新保遺跡群での体験発掘を計画したが、実施当日は朝から激しい風雨となり、やむを得ず現地での発掘体験は中止とした。代替として現場事務所内で勾玉作り及び古代の鏡作りを行った。

令和 5 年度の本イベントは残念ながら中止となったが、今後も同様のイベントを継続して実施し、金沢の豊富な歴史文化遺産を次世代へと守り伝える環境の醸成に努めていきたい。

なお、会場となった南新保遺跡群については、本書 12～18 頁を参照いただきたい。

第 23 回金沢こども歴史探検隊「チャレンジ！遺跡体験発掘 S4（シーズンフォー）」

開催日：令和 5 年 10 月 21 日（土）

内 容：南新保遺跡群（南新保 C 遺跡）の解説と歴史体験（勾玉作りと鏡作り）

参加者：4 名（小学生 2 名・保護者 2 名）

(4) 市民ふるさと歴史研究会『加賀の古代津湊』

市民ふるさと歴史研究会は、金沢市内の発掘調査等による成果を市民に伝えることを目的として平成16年（2004）から実施している。

今回は令和5年が加賀立国から1200年目にあたることにちなみ金沢縄文ワールドの企画展「加賀の古代津湊」に連動した催しとした。

まず、元・金沢市文化財保護課長で、当市で戸水大西遺跡や大友西遺跡など古代の港湾遺跡を発掘調査し研究している出越氏に、「金沢の港湾遺跡」と題してその成果を発表していただいた。

次に、金沢市埋蔵文化財センターの楠事務員が映像を見せながらの展示解説を行った。

最後に、古代国家と陸上・海上交通についての著書がある、文化庁第二課主任調査官の近江氏に、「海のみち、陸のみち—古代道路と津・港ー」を題して、講演いただいた。

その後参加者は自由に展示品を見学したのち解散とした。

実施日：令和5年11月5日（日）13:30～16:00

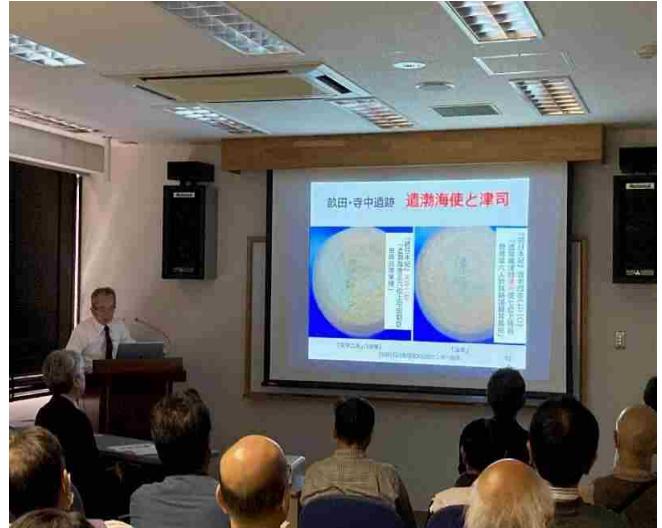
講 師：近江俊秀氏（文化庁第二課主任調査官）、出越茂和氏（石川考古学研究会会員）

会 場：金沢市埋蔵文化財センター 映像学習室および金沢縄文ワールド

参加者：39名



文化財保護課長 あいさつ



出越氏 講演



展示品解説



近江氏 講演

(5) 史跡活用事業

一般市民が郷土の歴史・文化と埋蔵文化財についての理解を深め、文化財愛護の精神を培う機会を創出することを目標として、イベントを開催している。主な対象は小学校高学年から中学生およびその保護者で、親子がふれあう機会を提供する場にもなっている。実施にあたっては、区域内に遺跡公園を持つ2つの公民館に事業を委託し、職員や金沢文化財ボランティアうめばちの会が協力している。また、経費の一部に石川県史跡整備市町協議会からの補助金を充てている。

各イベントの実施概要は以下のとおりである。

【チカモリ縄文まつり】

国指定史跡チカモリ遺跡の縄文時代の遺構を復元したチカモリ遺跡公園を会場に、縄文時代の生活を体験するイベントを平成7年度より行っている。

実施日：令和5年6月4日（日）

開催場所：チカモリ遺跡公園

主な内容：火起こし 勾玉作り 土器作り
土偶ブローチ作り 縄文ツアー
土器パズル 貫頭衣試着
埋蔵文化財収蔵庫見学

参加者：約450名

委託先：金沢市西南部公民館振興協力会



貫頭衣試着の様子

【史跡フェスタみわ】

国指定史跡東大寺領横江荘遺跡上荒屋遺跡の奈良・平安時代の初期荘園の風景を再現した上荒屋史跡公園を会場に、奈良・平安時代の生活体験イベントを平成9年度より行っている。今回は会場を変えての開催となった。

実施日：令和5年7月15日（土）

開催場所：金沢市三和公民館

主な内容：火起こし 勾玉作り
網代編み物作り
平安時代衣装試着 丸もち作り
古代食（古代米クッキー・五穀
米おにぎり）試食

参加者：約150名

委託先：金沢市三和公民館振興協力会



平安時代衣装試着の様子

【チカモリ学習会】

チカモリ縄文まつりの一環として、地域の方々にチカモリ遺跡および縄文時代の生活について理解を深めてもらうため、下記のとおり学習会を開催した。

実施日：令和5年7月22日（土）

開催場所：金沢市西南部公民館

主な内容：「チカモリ遺跡と縄文の衣」解説

　　アンギン作り体験

講師：鏡主事

参加者：33名



学習会の様子

（6） 鋳造体験

毎年、シリコン製の鋳型と地金を用いて古代鏡の鋳造体験を行っている。例年は下安原遺跡から出土した古墳時代の珠文鏡をモチーフにした鋳型を使っていたが、今回は昨年度作成した鋳型を使った。企画展「遺跡はタイムカプセル！」「加賀の古代津湊」に展示した、大友西遺跡から出土した平安時代の瑞花双鳥八稜鏡をモチーフにしたものである。展示期間中に鋳造体験を行ったので、参加者は自らが作った鏡を展示品と見比べていた。また、鏡に小孔をあけてペンダントに利用した者もいた。

体験にあたっては、職員が古代の鋳造および鏡の出土状況などを解説し、職員と金沢文化財ボランティア「うめばちの会」が補助しながら参加者が鋳造、研磨作業を行った。これを各日2回行つた。材料などの経費の一部に文化庁の補助金を充てている。

実施日：①令和5年7月30日（日）

　　②令和5年8月20日（日）

　　③令和5年11月11日（土）

開催場所：金沢縄文ワールド

参加者：①23名 ②20名 ③24名



シリコン製鋳型と鋳出した八稜鏡



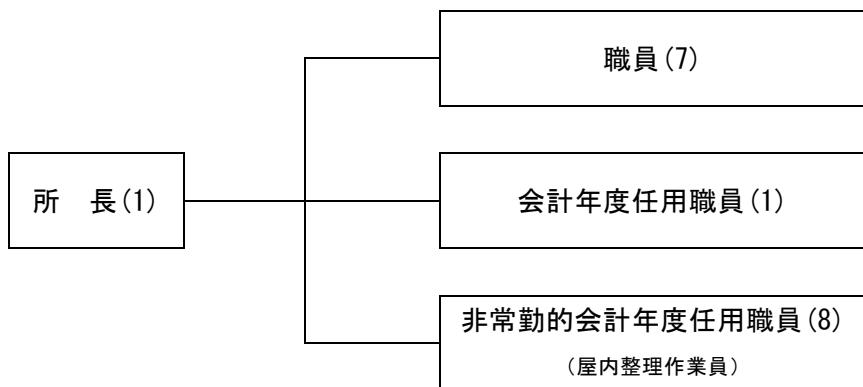
鋳造後、研磨している様子

（7） 所蔵品貸出し

当市が行う発掘調査で出土した考古資料は、普段は市内数か所にある収蔵庫に保管している。その一部は、国内の展示施設の求めに応じて貸出している。中には貸出先で常設展示となっているものもある。

4. 組織

令和 6 年 3 月 31 日現在



令和 5 年度

金沢市埋蔵文化財調査年報

令和 6(2024) 年 3 月 31 日発行

発行 金沢市
編集 金沢市埋蔵文化財センター
〒920-0374
石川県金沢市上安原南 60 番地
TEL 076-269-2451
FAX 076-269-2452
mail:maibun@city.kanazawa.lg.jp